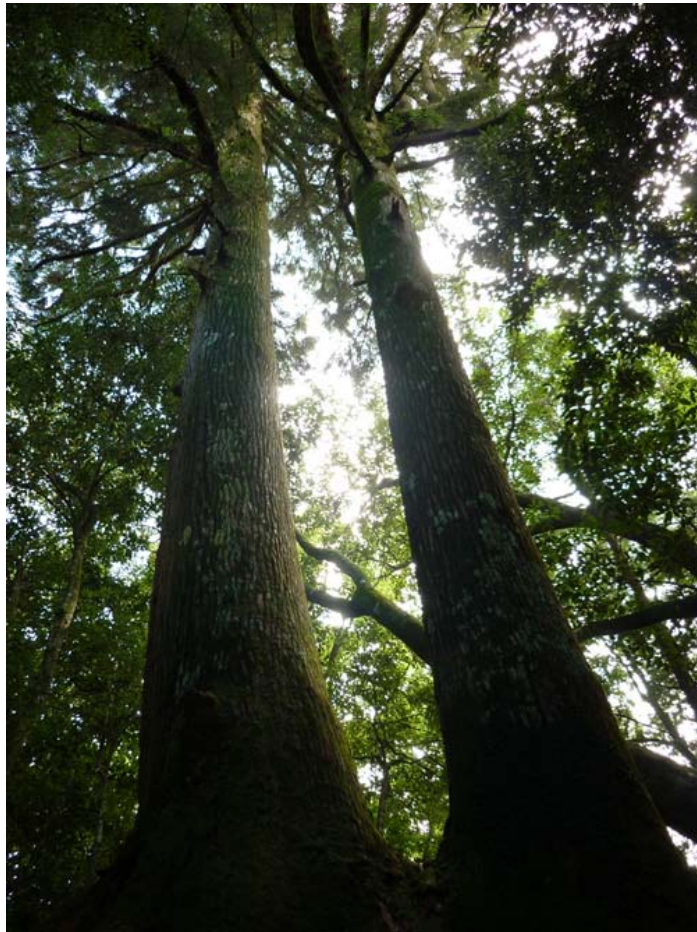


2010

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画

(綾の照葉樹林プロジェクト)

平成 22 年度事業報告書



綾の照葉樹林プロジェクト連携会議

九州森林管理局・宮崎県・綾町
(財) 日本自然保護協会・てるはの森の会

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

平成 22 年度事業報告書目次

目次.....	1
短期行動計画.....	3

報告書（短期行動計画順に掲載）

1.照葉樹林文化推進事業（てるはの森の会）.....	5
2 プロジェクト事務局運営事業（てるはの森の会）.....	6
3 綾森林生態系保護地域保全管理計画の策定（九州森林管理局）.....	7
4.綾川上流緑の回廊モニタリング調査（九州森林管理局）.....	8
5.保護林モニタリング調査（九州森林管理局）.....	9
6.環境教育エリア内の施設整備（九州森林管理局）.....	10
7.保護林等の情報に関する HP の充実（九州森林管理局）.....	11
8.人工林から照葉樹林への復元事業（九州森林管理局）.....	12
9.人工林から照葉樹林への復元事業（宮崎県）.....	13
10.人工林から照葉樹林への復元事業（綾町）.....	14
11.持続的林業経営エリアにおける森林整備（九州森林管理局）.....	15
12.ボランティア作業の実施（九州森林管理局・てるはの森の会）.....	16
13.調査研究ワーキングの実施（日本自然保護協会）.....	17
14.人工林から照葉樹林へのより効果的な復元手法の検討（九州森林管理局）.....	18
15.照葉樹林復元の動態・種子供給源調査及びシカ被害調査（九州森林管理局）.....	19
16.綾の照葉樹林復元のための調査・事業取りまとめ等の実施（九州森林管理局）.....	20
17.県産材を利用した商品開発による照葉樹林の復元（てるはの森の会）.....	21
18.データベースサイトの構築と運用の開始（日本自然保護協会）.....	22
19.生涯学習講座（綾町）.....	23
20.照葉樹林環境教育講座（綾町）.....	24
21.県有林造成事業（宮崎県）.....	25
22.遊歩道整備ボランティア作業（てるはの森の会）.....	26
23.会員情報（てるはの森の会）.....	27
24.綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査(日本自然保護協会).....	28
25.里山里海 SGA レポート(綾の過去50年の生態系サービスの変化とその要因)の出版(日本自然保護協会).....	29
26.ホームページ等の充実（九州森林管理局）.....	30
27.普及啓発事業（てるはの森の会）.....	31

28.照葉樹林文化シンポジウム運営補助（綾町）	32
29.第5回照葉樹林研究フォーラムの開催（てるはの森の会）	33
30.国際照葉樹林サミット（てるはの森の会）	34
31.事業説明会の開催（九州森林管理局）	35
32.環境学習事業（てるはの森の会）	36
33.森林セラピー基地整備事業（綾町）	37
34.地域づくりワーキングの設置及び運営（てるはの森の会）	38
35.照葉大吊橋ビジターセンター運営事業（てるはの森の会）	39
36.ふれあい調査の実施（古屋地区）（日本自然保護協会）	40

参考資料(新聞記事)

37.照葉樹林文化館 改装オープン	宮崎日日新聞 2010年4月4日	41
38.綾町山歩き HP 開設	宮日 2010年5月8日	41
39.国際照葉樹林サミット開催	宮日 2010年5月16日	42
40.国際照葉樹林サミット延期	宮日 2010年5月28日	43
41.綾てるは図書館の企画展	宮日 2010年6月20日	43
42.綾プロの紹介	宮日 2010年6月25日	44
43.本の紹介「照葉樹林って何だろう」	宮日 2010年6月29日	44
44.水源の森百選	宮日 2010年6月30日	45
45.綾の照葉大吊橋架け替え	宮日 2010年8月3日	46
46.ユネスコエコパーク申請へ	宮日 2010年8月10日	47
47.エコパーク目指す綾町 上	宮日 2010年8月23日	48
48.エコパーク目指す綾町 下	宮日 2009年8月24日	49
49.間伐材使い製品開発	宮日 2010年8月31日	50
50.スギ間伐材 木工製品に	朝日新聞 2010年10月16日	51
51.ラオス公務員 綾で研修	宮日 2010年3月8日	52
52.架け替え工事安全祈願	宮日 2010年10月19日	53
53.綾の照葉大吊橋 来月から閉鎖	宮日 2010年10月22日	53
54.ユネスコ関係者が綾視察	宮日 2010年10月28日	54
55.鈴木邦雄さんに聞く	宮日 2010年10月30日	55
56.MAB計画って何？	宮日 2010年11月1日	56
57.照葉樹林復元ボランティア募集	宮日 2010年11月13日	56
58.水源の森をすすめる市民の会 綾の森を散策	宮日 2010年11月16日	57
59.里山を子どもたちに	宮日 2010年11月22日	57
60.人と森の明日 国際森林年に	宮日 2011年1月5日	58
61.太陽電池生産で活性化	宮日 2011年1月8日	59
62.架け替え工事本格化	宮日 2011年1月14日	60
63.綾プロ事業説明会開催	宮日 2011年1月20日	61
64.綾プロ事業説明会開催	宮日 2011年1月23日	61
65.間伐材パネル商品化	宮日 2011年2月20日	62

(報告書の掲載方法) 1 事業を 1 頁にまとめ、短期行動計画の順に並べて掲載。表左側は、短期行動計画。記載者から右の項目は報告書記載担当者、事業名、事業の連携先、掲載頁となっている。

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 (綾の照葉樹林プロジェクト) 短期行動計画(20 年度～24 年度)

項目	項目	課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	報告書記載事業名	連携先	頁
1	協働の体制づくりのための基盤整備	綾の照葉樹林プロジェクトの推進	1 協定書を見直し第II期行動計画を作成する	① 協定書を延長するとともに必要に応じて内容の見直しを検討	全				
			2 森林計画の策定し、照葉樹林の復元、地域づくりを推進する	② 本プロジェクトを規定する森林計画を策定	全				
			3 事務局体制を確立し、安定的な事務局業務の運営を行う	① 安定的な財政基盤を確立 ② 2名以上の専従の雇用し、事務局業務運営を行う ③ 事務局運営のための事務所の整備	全 全 全	T T	照葉樹林文化推進事業 プロジェクト事務局運営事業	町 全	5 6
2	照葉樹林の保護	保護林の計画的・順応的保全管理を実施	1 保護林の保全管理計画を策定する	① 綾森林生態系保護地域の保全管理計画策定	国・NJ	国	綾森林生態系保護地域保全管理計画の策定	NJ	7
				② てるは郷土の森の保全管理計画策定	国・町				
				③ 県植物群落参考林の保全管理計画策定	県				
				④ 綾川上流緑の回廊モニタリング調査	国	国	綾川上流緑の回廊モニタリング調査 保護林モニタリング調査		8 9
			2 保全管理計画に基づき適切な保全管理を行う	① 巡視体制の構築	全				
				② 管理施設(案内板・標識等)の整備	全	国	環境教育エリア内の施設整備		10
			3 広く保護林等に係る各種情報を発信する	① 保護林等情報に関するHPの充実	全	国	保護林等の情報に関するHPの充実		11
				② 各種パンフレットの作成	全				
				③ 市民に向けた講演会の実施	全				
3	照葉樹林への効果的・効率的な復元を推進	1 復元手法を確立する	① 復元の基本方針(構想)を策定する	国・NJ					
			② 復元の復元手法の確立(復元手法マニュアルの作成)	国・NJ					
		2 復元手法に応じた施策を実施する	① 計画的な間伐の実施(国有林約500ha、県有林、町有林)	国・県・町	国	人工林から照葉樹林への復元事業		12	
			② 持続的な林業経営を行うエリアにおける施策の実施	国	国	人工林から照葉樹林への復元事業		13	
			③ 復元見本林の設置	国・NJ	町	人工林から照葉樹林への保護復元	NJ	14	
		3 市民のプロジェクトへの参加を推進する	① 市民参加型の復元作業の実施	国・T	国	ボランティア作業の実施		16	
4	照葉樹林を適切に復元するための調査研究を推進し、復元に反映	1 効果的・効率的な復元のための検討体制を構築する	① 調査研究ワーキンググループの設置、運営	国・NJ	NJ	調査研究ワーキングの実施	国	17	
			② 基本方針に基づき調査・研究体制の整備	全	国	人工林から照葉樹林へのより効果的な復元手法の検討		18	
			③ 他のワーキンググループ、調査研究機関との連携	全					
		2 調査・研究のための基本方針(構想)を策定し、計画的に調査を実施する	① 調査・研究の基本方針(構想)を策定	全					
			② 基本方針に基づき毎年度計画的な調査の実施	全	国	照葉樹林復元の動態・種子供給源調査及びシカ被害調査	NJ	19	
			③ 復元に必要なデータの収集と解析	国・NJ	国	照葉樹林復元のための調査・事業取りまとめ等の実施		20	
		3 復元効果を評価する調査研究を推進する	① 間伐後の復元状況を把握するモニタリングポイントの設置(国有林、県有林、町有林)	国・NJ					
			② データの収集、解析、復元方法へのフィードバック方法の確立	国・NJ					
		4 人工林等からの照葉樹林への復元手法等を検討する	① 人工林等からの照葉樹林への効果的・効率的な復元手法について検討	国・T・NJ					
			② 間伐木の処理方法等についての検討	国・T・NJ	T	県産材を利用した商品開発による照葉樹林の復元	町	21	
		5 調査・研究成果の共有化及びデータベースを構築する	① 調査・研究成果の情報発信	全					
② GISを活用した林小班ごとの復元に必要な情報の整備	国・NJ								
③ 調査・研究成果の共有化・データベース化	国・NJ		NJ	データベースサイトの構築と運用の開始	国・T	22			

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

短期行動計画(20年度～24年度)

項目	項目	課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	報告書記載事業名	連携先	頁
5	照葉樹林を通しての環境教育	照葉樹林の重要性を学ぶ環境教育の実施	1 環境教育プログラムを策定、実践	① 環境教育を実施するための行動計画を策定	全				
				② 環境教育エリア内の必要な整備計画を策定	全				
				③ 環境教育プログラムを検討し、試行的に実施	国・町・T	町	生涯学習講座		23
					町	照葉樹林環境教育講座	T	24	
			④ 環境教育エリア内の環境整備	国					
			2 大吊橋周辺の活用方法を検討、ト整備を行うとともに環境教育を実践する	① 大吊り橋周辺の環境教育に関する活用方法の検討	T				
				② 必要なルート整備を実施	県・町	県	県有林造成事業		25
③ 崩壊した九州自然歩道について新たなルートを検討し、今後の活用方法について提案	県	T		遊歩道整備ボランティア作業	県	26			
6	プロジェクトの情報発信	1 市民や民間企業参画のためのシステムやメニューづくりを行い、プロジェクトを推進する	① 綾プロの支援メニューづくり・企業の支援メニューづくりを検討し、実践	T					
			② サポーターの募集を行い、会員を増やす	全	T	会員情報		27	
			③ 市民参加型の間伐事業を実施（国有林）	全					
			④ 市民参加型の林床調査を実施する（国有林、県有林、町有林）	全	NJ	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査（継続）	T	28	
		2 広く一般にプロジェクトの内容を知ってもらい、会員の拡大を図る	① バンフレット、リーフレットの作成及び配布	全					
			② ニュースレター、報告書の作成及び配布	全	NJ	里山里海 SGA レポート(綾の過去50年の生態系サービスの変化とその要因)の出版	T	29	
			③ HPの作成及び更新	全	国	ホームページ等の充実		30	
			④ フェアラム・シンポジウムを実施	町・T	町	照葉樹林文化シンポジウム運営補助		32	
				T	第5回照葉樹林研究フォーラムの開催	全	33		
		⑤ 講演会等の実施	全	国	国際照葉樹林サミット 2010	全	34		
			国	事業説明会の開催	全	35			
		3 ガイドボランティアを養成し、市民の理解を深め、てるはの森の会の会員増加を図る	① ガイドボランティア事業の実施・養成	T	T	環境学習事業	町	36	
			② ガイドボランティアがガイドを通して市民に綾プロを理解してもらうためのプログラム作り	T					
		4 森林セラピー基地としての綾町の取り組みを通して、会員増加を図る	① 森の案内人を通じた照葉樹林の新たな活用方法を検討し、プロジェクトへの理解を深めるための森林セラピープログラムを作成	町	町	森林セラピー基地整備事業		37	
			② ガイドボランティアとの連携体制についての検討	町・T					
		7	自然と共生した地域づくり	1 市民との協働で実施する運営体制を構築し、市民が積極的に綾プロに参画できるようにする	① 地域づくりワーキングの設置及び運営	町・T	T	地域づくりワーキングの設置及び運営	町
② てるはの森の驛の活用方法を検討し、それに応じて必要な整備	町・T				T	照葉大吊橋ビジターセンター運営事業	町	39	
③ ふれあい調査の実施	NJ・町・T				NJ	ふれあい調査の実施（古屋地区）	町・T	40	
2 照葉樹林文化館の活用方法を検討し、より広く活用されるようにする	① 活用方法を検討する市民協議会の設置			町・T					
	② 照葉樹林文化館の活用計画を策定			町・T					
3 綾町の他の事業との連携のあり方を検討し、実行計画を策定する	① 活用方法を検討する市民協議会の設置			町・T					

※ 国は九州森林管理局、県は宮崎県、町は綾町、NJは日本自然保護協会、Tはてるはの森の会の略

1-3-②

事業名	照葉樹林文化推進事業(継続)	実施主体	綾町
		連携先	てるはの森の会 (宮崎文化本舗)
事業概要 (目的)	ふるさと雇用再生特別交付金事業を活用し、照葉樹林文化推進のため1名を雇用する。		

照葉樹林文化推進事業の委託を受けた宮崎文化本舗は1名を雇用し、てるはの森の会の職員として派遣した。てるはの森の会の事務補助として、綾プロジェクトに関わった。

委託事業費を活用した成果物の1つが「てるはの森の会」のパンフレットだ。当会の活動紹介、綾の照葉樹林プロジェクトの活動紹介、綾の照葉樹林の紹介を掲載している。パンフレットを長く所有して欲しい、持ち歩いて欲しいという思いから、裏面に簡略的な散策地図を掲載した。サイズはA3の両面印刷になっている。

国際照葉樹林サミットで配布することができた。



てるはの森の会パンフレット

今年度から、綾町の生涯学習講座にも参加している。開講前に河野耕三氏の下見に同行し、植物リストを作成。食・薬効・毒や工芸などの利用方法、分布状況などを一覧にまとめ、講座ごとに資料として配布した。1年間で約800種類のリストができた。

次年度も継続して生涯学習講座に参加し、精査しながら綾の植物リストを作成する予定だ。



植物リストを手に、生涯学習講座を受ける様子



植物の特徴などを確かめながら、名前を覚えたり確認する場面


1-3-③

事業名	プロジェクト事務局運営事業(継続)	実施主体	てるはの森の会																																	
		連携先	連携会議																																	
事業概要 (目的)	プロジェクト関係機関との調整、問合せ対応、事業の企画運営などを行なう。 年2回開催の連携会議、月1回開催の連絡調整会議の連絡調整、資料作成等の準備を行う。																																			
○連携会議	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>日時</th> <th>主な議題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">12</td> <td rowspan="2">8月9日</td> <td>平成21年度事業報告・平成22年度事業計画案</td> </tr> <tr> <td>地域づくりWGからの提言・「国際照葉樹林サミット」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">13</td> <td rowspan="2">1月21日</td> <td>平成22年度事業計画進捗状況について</td> </tr> <tr> <td>「国際照葉樹林サミット 2011」 ユネスコ「人間と生物圏(MAB)」計画について</td> </tr> </tbody> </table>			回数	日時	主な議題	12	8月9日	平成21年度事業報告・平成22年度事業計画案	地域づくりWGからの提言・「国際照葉樹林サミット」	13	1月21日	平成22年度事業計画進捗状況について	「国際照葉樹林サミット 2011」 ユネスコ「人間と生物圏(MAB)」計画について																						
回数	日時	主な議題																																		
12	8月9日	平成21年度事業報告・平成22年度事業計画案																																		
		地域づくりWGからの提言・「国際照葉樹林サミット」																																		
13	1月21日	平成22年度事業計画進捗状況について																																		
		「国際照葉樹林サミット 2011」 ユネスコ「人間と生物圏(MAB)」計画について																																		
○連絡調整会議	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>日時</th> <th>主な議題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4月15日</td> <td>平成21年度報告書・連携会議について 「国際照葉樹林サミット」について</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5月10日</td> <td>「国際照葉樹林サミット」・MAB計画について 第12回連携会議について</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>8月9日</td> <td>養蜂場の計画について</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9月13日</td> <td>次回間伐作業(11月28日)について 今後のスケジュールについて MAB計画について</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10月12日</td> <td>次回間伐作業(11月28日)について 今後のスケジュールについて MAB計画について</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11月16日</td> <td>次回間伐作業(11月28日)について 今後のスケジュールについて MAB計画について</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>12月20日</td> <td>綾プロ事業報告会・連携会議の開催について 今後のスケジュールについて 綾町広報誌について</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1月20日</td> <td>綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会開催について 第13回連携会議について 今後のスケジュールについて</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2月18日</td> <td>BR申請について 報告：シカ問題、県有林遊歩道看板設置について</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>3月17日</td> <td>BR申請について</td> </tr> </tbody> </table>			回数	日時	主な議題	1	4月15日	平成21年度報告書・連携会議について 「国際照葉樹林サミット」について	2	5月10日	「国際照葉樹林サミット」・MAB計画について 第12回連携会議について	3	8月9日	養蜂場の計画について	4	9月13日	次回間伐作業(11月28日)について 今後のスケジュールについて MAB計画について	5	10月12日	次回間伐作業(11月28日)について 今後のスケジュールについて MAB計画について	6	11月16日	次回間伐作業(11月28日)について 今後のスケジュールについて MAB計画について	7	12月20日	綾プロ事業報告会・連携会議の開催について 今後のスケジュールについて 綾町広報誌について	8	1月20日	綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会開催について 第13回連携会議について 今後のスケジュールについて	9	2月18日	BR申請について 報告：シカ問題、県有林遊歩道看板設置について	10	3月17日	BR申請について
回数	日時	主な議題																																		
1	4月15日	平成21年度報告書・連携会議について 「国際照葉樹林サミット」について																																		
2	5月10日	「国際照葉樹林サミット」・MAB計画について 第12回連携会議について																																		
3	8月9日	養蜂場の計画について																																		
4	9月13日	次回間伐作業(11月28日)について 今後のスケジュールについて MAB計画について																																		
5	10月12日	次回間伐作業(11月28日)について 今後のスケジュールについて MAB計画について																																		
6	11月16日	次回間伐作業(11月28日)について 今後のスケジュールについて MAB計画について																																		
7	12月20日	綾プロ事業報告会・連携会議の開催について 今後のスケジュールについて 綾町広報誌について																																		
8	1月20日	綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会開催について 第13回連携会議について 今後のスケジュールについて																																		
9	2月18日	BR申請について 報告：シカ問題、県有林遊歩道看板設置について																																		
10	3月17日	BR申請について																																		

2-1-①

事業名	綾森林生態系保護地域保全管理計画の策定	実施主体	九州森林管理局
		連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	綾森林生態系保護地域における保全管理について検討を行った。		
<p>綾森林生態系保護地域の保全管理にあたって必要な以下の調査を実施し、第2回、第3回の検討委員会を開催した。</p> <p>調査内容</p> <p>綾森林生態系保護地域における動植物相を概略把握するための調査</p> <p>植物相調査（調査ルート沿いに出現する植物相の確認）</p> <p>動物相調査（フィールドサイン調査、任意観察調査、自動撮影調査）</p> <p>希少猛禽類調査（クマタカをはじめとする希少猛禽類の生息調査）</p> <p>検討委員会の概要</p> <p>第2回の検討委員会は平成22年9月29日に宮崎市内で開催し、主として対象地域の特徴と現状の確認、対象地域の保全管理と利用に関する事項について議論を行った。</p> <p>第3回の検討委員会は平成23年2月7日に宮崎市内で開催し、対象地域の保全管理、利用に関する事項の確認と保全管理の推進体制に関する議論等を行った。</p>			
			
動物相調査で確認されたニホンカモシカ(自動撮影調査)		綾森林生態系保護地域 保全管理計画検討委員会の様子	

2-1-④

事業名	綾川上流緑の回廊モニタリング調査	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	<p>「綾川上流緑の回廊（エリア3・5）」において森林の状態とそこに生息・生育する野生動植物の実態を把握するため、以下のモニタリング調査を行った。</p> <p>1 森林植生調査（4箇所、エリア5）</p> <p>2 哺乳類・鳥類生息調査（4箇所、エリア5）</p>		
<p>平成18年度に設置した4箇所の調査プロットにおいて、森林植生調査並びに哺乳類及び鳥類の生息調査を行った。哺乳類は自動撮影調査及びフィールドサイン調査を、鳥類はプロットセンサス調査などを行った。その結果、ホンドテン、ムササビなど11種の哺乳類とコシジロヤマドリなど30種の鳥類を確認した。</p> <p>綾川上流緑の回廊モニタリング調査は平成18年度より4年を1サイクルとして行ってきたところであり、今回の調査箇所は平成18年度に実施した箇所のモニタリングに位置づけられる。</p> <p>調査の結果、平成18年と比較してシカ食害等の要因によると考えられる出現植物の変化が見られたプロットがあったものの、動物相については大きな変化は見られなかった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>調査風景(自動撮影装置の設置)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ムササビ (自動撮影調査)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ホンドイタチ (自動撮影調査)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>イタチ類の糞 (フィールドサイン調査)</p> </div> </div>			

※ フィールドサイン調査：個体の直接観察や痕跡観察により、生息状況を把握する調査

※ プロットセンサス調査：調査区域内にランダムに観察区画を設定し、一定時間内に観察された種類を記録する調査

2-1-④

事業名	保護林モニタリング調査	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	掃部岳植物群落保護林における保護林モニタリング調査、並びに綾森林生態系保護地域、大森岳植物群落保護林、てるは郷土の森における保護林モニタリング基礎調査を行った。		
<p>綾の照葉樹林プロジェクトエリア内の掃部岳植物群落保護林において保護林モニタリング調査を実施したほか、綾森林生態系保護地域、大森岳植物群落保護林、てるは郷土の森について資料調査、現地概況調査等による保護林モニタリング基礎調査を行った。</p> <p>掃部岳植物群落保護林で行った保護林モニタリング調査では 8 箇所の調査プロットにおいて毎木調査、植生調査等を行ったほか、登山道沿いのルートでシカ被害状況調査を行った。</p> <p>調査プロットで確認された植物はブナやアカガシ等、当保護林を代表する樹種の他、シカの忌避植物であるシキミ、アセビ等も多く確認された。</p> <p>またシカ被害調査ではリョウブ、エゴノキ等の樹皮への食害等が広い範囲で確認されたほか、マツカゼソウやイワヒメワラビなどシカの忌避植物が優占する箇所が見られるなど、シカによる森林生態系への影響が課題としてあげられた。</p>			
			
調査プロット設置箇所周辺の林況 (掃部岳植物群落保護林)		シカによる樹皮剥皮害の状況 (掃部岳植物群落保護林)	

2-2-②

<p>事業名</p>	<p>環境教育エリア内の施設整備</p>	<p>実施主体</p>	<p>九州森林管理局</p>
<p>事業概要 (目的)</p>	<p>綾森林生態系保護地域の保全利用地区（バッファゾーン）において、森林環境教育的な利用を推進するための説明板及び樹名板を製作した。</p>		

綾森林生態系保護地域の保全利用地区において森林環境教育的な利用を推進するための木製説明板及び樹名板を製作した。

説明板は木製の支柱及び枠を使用したもので、「森林軌道と製材所跡について」、「イチイガシの森の生態系について」、「森林からの木材の運搬と修羅出し跡について」説明したものをそれぞれ製作した。

また樹名板は杭またはスプリング等により設置できるもので、科名及び樹種名を記入したものを50枚、無記入のものを100枚製作した。

今後はこれらを活用した森林環境教育等の実施により綾森林生態系保護地域をはじめとする綾の照葉樹林の生態系や生物多様性やそれらを保全管理していくことの重要性等について普及啓発を行っていくこととしている。



説明板
(森林軌道と製材所跡)



樹名板

2-3-①

<p>事業名</p>	<p>保護林等の情報に関する HP の充実</p>	<p>実施主体</p>	<p>九州森林管理局</p>
<p>事業概要 (目的)</p>	<p>綾の照葉樹林プロジェクトに関係する各保護林についての情報発信のため、概況等を紹介するページを新規に作成した。</p>		

綾の照葉樹林プロジェクト内に位置する掃部岳植物群落保護林、大森岳植物群落保護林、綾森林生態系保護地域、てるは郷土の森について概況等を紹介するホームページの作成を行った。

掃部岳植物群落保護林

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/kamondake.html>

大森岳植物群落保護林

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/oomoridake.html>

綾森林生態系保護地域

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/aya.html>

てるは郷土の森

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/teruhakyoudo.html>



綾森林生態系保護地域 HP



てるは郷土の森 HP

3-2-①

<p>事業名</p>	<p>人工林から照葉樹林への復元事業</p>	<p>実施主体</p>	<p>九州森林管理局</p>								
<p>事業概要 (目的)</p>	<p>綾の照葉樹林プロジェクト復元エリアの人工林を照葉樹林に復元するための間伐作業等を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="411 584 911 741"> <thead> <tr> <th>作業の内容</th> <th>実行面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>除 伐</td> <td>12.25 ha</td> </tr> <tr> <td>間 伐</td> <td>46.81 ha</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>59.06 ha</td> </tr> </tbody> </table>			作業の内容	実行面積	除 伐	12.25 ha	間 伐	46.81 ha	計	59.06 ha
作業の内容	実行面積										
除 伐	12.25 ha										
間 伐	46.81 ha										
計	59.06 ha										

綾の照葉樹林プロジェクト小エリア毎の復元作業内容

1. エリア5 (保護林と保護林との間にある復元エリアの人工林を抜き伐りし、かつての照葉林へ復元する作業を実施)
 - ・ 間 伐 44.66 ha (2135除外10)
2. エリア9 (アクセスが良く、環境教育、セラピー的利用を目指すエリアの人工林の抜き伐り作業を実施)
 - ・ 除 伐 12.25 ha (2049わ3外4)
 - ・ 間 伐 2.15 ha (2047ほ外1)



間伐作業状況
(柚園国有林2135た林小班)

間伐完了状況
(柚園国有林2135た林小班)



3-2-①

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業(継続)	実施主体	宮崎県
		連携先	
事業概要 (目的)	スギ人工林の混交林化への誘導技術に関する研究を継続実施 (試験期間：平成19年度～平成23年度・5ヶ年間)		

スギ人工林の混交林への誘導技術に関する研究概要

宮崎県林業技術センター

○これまでの経緯

綾町諸県県有林24林班内の51年生スギ林内に本数率で0、30、50%の間伐試験区を設け調査を行った。林分の概況については、平均樹高17.3～18.4mと上長成長は劣り、地位はⅢ（平成19年度スギ林分収穫予想表）であった。形状比は82～88と高く、樹冠長比は32.6～34.7と中庸で、極端な樹冠の枯上がりはみられなかった。広葉樹の侵入の程度は比較的多く、試験地に隣接する場所に広葉樹が見られた。

○調査の内容

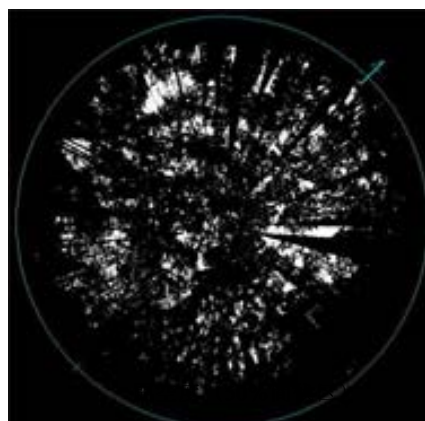
林内の植生について継続調査を行った結果、木本植物はどの試験区においても種数・本数とも同様の傾向を示し100m²当たり23～24種、136～138本であった。種数の半数がタブノキ、バリバリノキ、アラカシ等の照葉樹林型の高木性樹種であった。照葉樹林型の高木性樹種については、樹高100cm未満のものが本数で約半数を占めた一方、間伐以前から存在したと思われる500cm以上のものが約1割を占めた。当試験地は広葉樹林に隣接し、当初から広葉樹が多く侵入していたため、高木性樹種の侵入・定着が促進されたと考えられる。光環境の指標である開空度は7.5～8.0%となり間伐後3年が経過し間伐率の異なる試験区間で違いは見られなかった。

○今後の調査予定

①広葉樹調査、②光環境調査、③埋土種子発芽試験、④既存広葉樹調査を行う。また、美郷町西郷区と椎葉村に同様に設置した試験区との比較を行う。



試験区内の広葉樹侵入定着状況



3-2-①

<p>事業名</p>	<p>人工林から照葉樹林への保護復元</p>	<p>実施主体</p>	<p>綾町</p>
		<p>連携先</p>	<p>日本自然保護協会</p>
<p>事業概要 (目的)</p>	<p>綾プロジェクトエリア内の町有林の復元間伐を実施した。 実施期間 3月2日～3月25日 大口町有林 2.00 ha 30% スギ 切り捨て間伐</p>		
<div style="text-align: center;">  <p>大口町有林位置図</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>実施状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>実施状況</p> </div> </div> </div>			

3-2-②

事業名	持続的林業経営エリアにおける森林整備	実施主体	九州森林管理局						
事業概要 (目的)	<p>綾の照葉樹林プロジェクトの持続的林業経営エリアにおいて、水土保持機能を高めるため保育間伐を実施した。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: right;">作業の内容</td> <td style="text-align: center;">実行面積</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">間伐</td> <td style="text-align: center;">14.71ha</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">作業道作設</td> <td style="text-align: center;">1,000m</td> </tr> </table>			作業の内容	実行面積	間伐	14.71ha	作業道作設	1,000m
作業の内容	実行面積								
間伐	14.71ha								
作業道作設	1,000m								

綾の照葉樹林プロジェクト持続的林業経営エリアの作業内容

- エリア11 (持続的林業経営エリアにおいて、水土保持機能を高めるための保育間伐作業を実施)
 - ・間伐 14.71ha (2123ぬ外2)
 - ・作業道作設 1,000m (2107林班)

間伐作業状況
(柚園国有林2123る林小班)



間伐作業完了状況
(柚園国有林2123る林小班)



作業道完成状況
(柚園国有林2107林班)



3-3-①

事業名	照葉樹林復元ボランティア作業の実施	実施主体	九州森林管理局 てるはの森の会
事業概要 (目的)	ボランティア用見本林(2045い1外)において復元作業を実施。		

平成22年11月28日、今回8回目となるボランティアによる照葉樹林復元作業を行った。当日は、地元からの応募者と関西からのピザハット体験ツアーの親子、合わせて31名が参加した。作業は、傾斜が緩やかな箇所と傾斜がきつい箇所の2箇所に分かれて行った。傾斜が緩やかな箇所では、親子グループが2班に分かれて交代で作業を行い、子供たちには作業を行わない時間を利用して木の枝を利用した「モックン」や名札づくりを行った。作業後には、2年前に復元作業を行った箇所で、照葉樹が芽を出している状況などを説明、子供達は熱心に聞き入っていた。



親子で協力しての作業



照葉樹の稚樹に水をかける子供

<復元作業>

日光が地面に良く届くよう人工林のスギやヒノキを抜き伐りするもので、日光が林内に届くことで、すでに生育している照葉樹を大きくしたり、照葉樹の種が芽を出しやすくするために行う作業。

平成23年2月に予定されていた今年度2回目の復元作業は新燃岳の降灰により中止となった。

4-1-①

事業名	調査研究ワーキングの実施(継続)	実施主体	NACS-J
		連携先	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける照葉樹林の復元方法を科学的に検討し、適切な復元が実施されるように提言を行う。復元に必要な調査やデータの解析を行い、その結果を復元に反映させる。特に復元方法、適地選定、評価方法についてまとめた綾プロの復元マスタープランの作成を行う。		
<p>4月27日に調査研究ワーキングの委員である岩本俊孝教授(宮崎大)、西脇亜也教授(宮崎大)、高木正博准教授(宮崎大)、河野耕三氏(綾町)が参加して綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける今年度の復元間伐を実施するエリアの視察を行った。また、九州森林管理局で策定した「綾の照葉樹林プロジェクト(綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画)における照葉樹林復元事業の実施方針について検討を行った。委員からは不安定な場所では保護樹帯から近く種子供給が期待できても地滑りや土壌侵食等によりあまり回復してこない、またそのような場所でシカによる食害の影響が懸念されるといった意見が出された。シカに対しては糞粒法による個体群密度の推定を行いどこどの程度生息しているのかを把握する必要性やシカ柵設置による防除による対策についても意見が出た。また、照葉樹林復元事業の実施方針については前回の調査研究ワーキングでの意見に加えて広葉樹の発生が多い場合にはじんツルなどは伐採するとなっていたが残すようにすることなどいくつかの修正をしたこと、間伐施業した場所については施業の考え方にしたがって整理をして提示してほしいなどの意見があった。</p>			
			
写真1 現地見学のようす		写真2 綾町役場での検討のようす	

4-1-①

事業名	人工林から照葉樹林へのより効果的な復元手法の検討	実施主体	九州森林管理局
		連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトの復元エリアを対象として、人工林を照葉樹の天然林に復元するためのより効果的な施業方法について検討した。		
<p>人工林を照葉樹の天然林に復元するための効果的な施業方法（施業ガイドライン）について、調査研究WGの委員による検討会を行った。</p> <p>検討会では、効果的に復元するための作業種、復元箇所に適した作業の選定基準などについて討議した結果、作業種選定については、林道から林分までの距離により、広葉樹の発生・生育状況、林齢及び造林木の状況から8つに区分し作業種を選択する表を作成した。</p> <p>施業ガイドラインの検討</p> <p>日 時 平成22年4月27日（火） 8:30～14:00 場 所 綾の照葉樹林プロジェクトの復元エリア及び綾町役場</p> <p>WG委員（敬称略、五十音順） 河野 耕三（綾町 照葉樹林文化推進専門監） 高木 正博（宮崎大学農学部准教授） 西脇 亜弥（宮崎大学農学部教授）</p>			
			
現地での復元状況確認		施業方法等の検討	

4-2-②

事業名	照葉樹林復元の動態・種子供給源及びシカ被害調査	実施主体	九州森林管理局
		連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	復元エリアにおいて、既設プロットの動態調査及びシカ食害調査を行うとともに、新たに落葉広葉樹林帯である標高約800m以上にプロットを設置し調査を実施		

綾の照葉樹林プロジェクトの復元エリアにおいて、効率的、効果的な照葉樹林への復元に資するため、既設プロットの動態調査に加え、落葉広葉樹が生育する人工林内に新たな調査プロットを設置し、種子供給源、実生発生、林内動態について調査した。

また、近年、シカによる稚幼樹への採食圧が散見されており、復元への阻害要因となる懸念があることから、既存の照葉樹林の調査プロットでシカ防護柵を設置し、シカによる被害調査を実施した。

〈主な調査結果〉

(1)既設プロットの調査

平成19、20年度に調査した6調査プロットを対象として動態調査を実施した。いずれの調査プロットにおいても、下層植生の中に高木性樹種の存在が確認されており、また、一部調査プロットでは間伐の実施後実生が増加し間伐の効果が見られた。

(2)落葉広葉樹林等を種子供給源とする新設プロットの動態調査

落葉広葉樹林等を種子供給源とする林分に5調査プロットを設置し、立木調査等を実施した。間伐を実施した一部調査プロットでは、実生の発生が確認された。

(3)シカ被害調査（シカ防護柵設置）

シカ防護柵を設置してシカの採食圧を排除した場合の潜在的な復元力を把握するため、防護柵を設置した調査区と設置しない対象区でそれぞれ動態調査を実施した。



落葉樹林の種子供給源の林況



シカ防護柵を設置した調査プロット

4-2-③

事業名	照葉樹林復元のための調査・事業とりまとめ等の実施	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾プロに関してこれまでに行われた各種調査事業の成果のとりまとめ等を実施		

1 対象区域

綾の照葉樹林プロジェクトエリア内（国有林野内）

2 内容

綾の照葉樹林プロジェクトエリア内において、九州森林管理局がこれまでに実施した各種調査について、照葉樹林の復元、緑の回廊モニタリング調査等に区分し、それぞれの概要と成果について取りまとめるとともに、GISを用いて調査プロットの位置図を作成した。

- ・照葉樹林の復元に関連する調査 調査年度毎にGISを活用しつつ、調査プロットの位置、毎木調査、稚樹調査等の調査内容、成果等を整理
- ・緑の回廊に関連する調査 調査年度毎にGISを活用しつつ、調査プロットの位置、森林調査、自動撮影調査等の調査内容、成果等を整理等

また、市民団体が行った水生昆虫に関する調査（綾の森の沢調査）の実施概況、森林総合研究所によるリサーチサイトの調査概況を併せてとりまとめた。

その他、九州森林管理局が取り組んでいる調査・研究、保護・復元事業等について市民の方々に紹介する冊子を作成した。



GISを活用した照葉樹林の復元に関連する調査プロットの位置図



綾の照葉樹林について取りまとめた冊子

4-4-②

事業名	県産材を利用した商品開発による照葉樹林の復元	実施主体	てるはの森の会
		連携先	綾町・環境省
事業概要 (目的)	県産材を利用した商品やサービスを開発・販売し、自主財源を確保する計画作りを行う。 「平成22年度持続可能な社会づくりを担う事業型環境NPO・社会的企業中間支援スキーム事業のモデル実証事業」(環境省九州地方環境事務所)		
<p>○業務の概要</p> <p>宮崎県下での間伐材を利用した木工品の開発・試作品の製作及び森を利用したサービスの開発・施行を行い、新たなビジネスモデルとしての可能性を検討するため、事業を行う。</p> <p>○商品の開発</p> <p>木製パネル・展示スタンド等の商品開発</p> <p>○今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目標額を売るための仕組みづくり。 ● 具体的に、どれくらい製品を作るとどれくらい森の活動に還元できるのかを明示する工夫。 ● 製品自体回転させるものではない点をどう克服するのか。 ● 販売を通じた活動のメッセージを浸透させる。 ● 焼印をつくってはどうか。 ● てるはの森の会がなぜその製品をつくっているのか、購入者がわかるようにする。 <p>○今後の行動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 間伐地の材利用のやり方。 (何ヘクタール、搬出は誰がするか、そのコストは… 等) ● 焼印の開発(てるはの森の会 ロゴマーク作成) ● てるはの森の会がなぜその製品をつくっているのか購入者がわかるようなものを作成し、製品に添付する。 <p>○まとめ</p> <p>試作品を検討する中で、木製パネルの需要があることが実感できた。今後はいかに持続的に販売数や生産数を維持していくか、検討する必要がある。</p> <p>てるはの森の会の経営的自立に向けて、パネル販売事業を今後どのように運営・展開していくのか、具体的に検証することができた。木製パネルだけでなく、スタンドを開発できたことが本事業の成功につながると思う。</p>		 <p>木製パネル</p>  <p>パネルスタンド</p>	

4-5-③

事業名	データベースサイトの構築と運用の開始	実施主体	NACS-J
		連携先	九州森林管理局、 てるはの森の会
事業概要 (目的)	SISPA(戦略的保全地域情報システム)のデータベースのグループ化機能を使って綾プロで作成された各種情報を登録し、関係者間で共有できるようにする。特に市民参加調査で得られた情報を登録し、参加者や関係者が閲覧できるようにする。		

これまでプロジェクト内外で実施されてきた綾の照葉樹林に関する調査研究は、照葉樹林の保護・復元に非常に重要な基礎資料となる。またMABへの指定に向けて、指定後の継続的な調査にも重要なものとなってくる。そこで、これまでの調査、研究の成果をデータベース化し、地図上にまとめ、関係者間で共有できる仕組みを作る。

2010年9月までにSISPAウェブサイト内に綾プロジェクトのグループを作成し、下記のデータをデータベースに登録した。

- ・ NACS-J実施の町有林復元のための基礎調査報告書
- ・ 九州の照葉樹林の潜在メッシュ
- ・ 大森岳・式部岳に設置した気象観測ロガーのデータ
- ・ MABに指定されるエリア図(予定地)
- ・ NACS-Jが行っている調査の位置情報
- ・ ボランティア活動植生調査の組成表

これらはユーザーIDおよびパスワードが分かるメンバーのみ閲覧可能になっている。またこれらのデータをもとに解析を行った結果を広く公開するためウェブサイト上に「日本に残る、僅かな照葉樹林」、「大森岳調査の結果」などの解析事例を掲載した。



図1 データベースに登録されたデータ

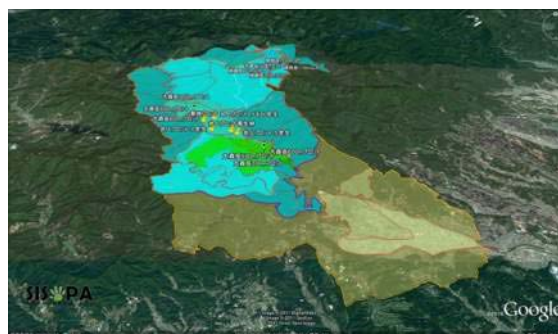


図2 綾プロデータの一部を重ねあわせた様子

5-1-③

事業名	生涯学習講座	実施主体	綾町
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	「自然と調和した豊かで活力に充ちた教育文化都市綾町」創出のため、綾の照葉樹林を中心とした自然について専門家の講義を聴き、町民の保護運動参加への一助とする生涯学習を開設した。		
講座実施状況	6月から実施	延べ 204 名参加	() 講師
第 1 回	6月 8日 (火) 屋外	食用可・不可の植物	竹野 (河野 耕三)
第 2 回	7月 13日 (火) 屋外	食べられる野草、毒を持つ野草	錦原付近 (河野 耕三)
第 3 回	7月 13日 (火) 屋内	綾町の文化財色々	町公民館 (井上 隆広)
第 4 回	8月 9日 (月) 屋外	水田の草、河辺の草	トレイルセンター付近 (河野 耕三)
第 5 回	8月 10日 (火) 屋内	地下式横穴墓の説明	町公民館 (井上 隆広)
第 6 回	9月 21日 (火) 屋外	ツル性植物、沢を好む植物	千尋の滝他 (河野 耕三)
第 7 回	10月 12日 (火) 屋外	秋の木の実を含む山菜、薬草	照葉吊橋付近 (河野 耕三)
第 8 回	10月 12日 (火) 屋内	尾立縄文遺跡、小平谷遺跡	町公民館 (井上 隆広)
第 9 回	11月 16日 (火) 屋外	ドングリのなる木色々	諸県県有林 (河野 耕三)
第 10 回	11月 16日 (火) 屋外	文化財、史跡を廻る	町内 (井上 隆広)
第 11 回	12月 21日 (火) 屋外	川中神社付近の植物	川中神社付近 (河野 耕三)
第 12 回	1月 18日 (火) 屋外	自然生態系保全林の植物	川中キャンプ場 (河野 耕三)
第 13 回	2月 22日 (火) 屋外	里・湿地・水辺の植物	錦原公園付近 (河野 耕三)
第 14 回	3月 15日 (火) 屋外	里にある食べられる野草を探す	古屋 (河野 耕三)



食べられる野草を探す

5-1-③

事業名	照葉樹林環境教育講座	実施主体	綾町
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	子ども達が貴重な財産である照葉樹林について理解を深め、同時に自然意識の高揚を図る。綾小、中学校で実施した。		
<p>※ 綾小学校 4年生 64名 担任 3名 計67名 講師 フェニックス宮崎ネイチャーゲームの会 平成22年11月29日(月) 会場 綾神社と周辺公園遊歩道 内容 ネイチャーゲーム ①ジャンケン落ち葉集め ②音いくつ ③ディスカバーウォーク ④ サイレントウォーク ⑤ドングリ拾い ⑥森と水の話 :まとめ</p> <p>※ 綾中学校 1年生 73名 平成23年1月27日(木) 会場 綾中体育館 内容 「国有林の仕事と綾の森」 講師 宮崎森林管理署、綾森林事務所 法ヶ岳森林事務所、竹野森林事務所</p>			
			
綾小学校 (綾神社)		綾中学校(綾中体育館)	

5-2-②

事業名	遊歩道整備ボランティア作業	実施主体	てるはの森の会
		連携先	宮崎県・綾町
事業概要 (目的)	大吊り橋上の遊歩道(諸県県有林・綾町有林)を整備し、新たな散策ルートとして活用する。		



作業の様子



大森岳を望む展望スポット

○遊歩道整備作業（5月8日）

昨年から取り組んでいる諸県県有林・綾町有林の遊歩道整備事業。

今年度はスギを伐り、大森岳の見える展望スポットを整備した。チェーンソーと草刈り鎌で整備すること3時間。14名の参加者の頑張りにより、展望スポットが出来た。



コナラ

○遊歩道調査（12月6日）

県有林遊歩道に案内板を設置するための遊歩道の調査。

尾根沿いに照葉樹林が残り、コナラ林を見つけた。GPSを使い、遊歩道のわき道を地図上に落とし込み、看板案を作製した。

○看板設置

県有林遊歩道に案内板を設置。

懸案の照葉樹林文化館の上の崖もロープが張られ、安全に通行可能となった。



設置した看板

6-1-②

事業名	会員情報	実施主体	てるはの森の会										
		連携先	全										
事業概要 (目的)	サポーターの募集を行い、会員を増やす。												
<p>○会員数：H23.3.31現在</p> <p>個人会員 127件 (-3) 前年比 家族会員 27件 (-1) 法人会員 25件 (+0) 団体会員 14件 (+0)</p> <p>○会費収入 515,500円</p> <p>○寄付金収入 444,430円</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>吊り橋募金</td> <td>18,467</td> </tr> <tr> <td>企業寄付</td> <td>400,000</td> </tr> <tr> <td>個人寄付</td> <td>17,463</td> </tr> <tr> <td>写真集寄付</td> <td>8,500</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>444,430</td> </tr> </table>				吊り橋募金	18,467	企業寄付	400,000	個人寄付	17,463	写真集寄付	8,500	計	444,430
吊り橋募金	18,467												
企業寄付	400,000												
個人寄付	17,463												
写真集寄付	8,500												
計	444,430												

6-1-④

事業名	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける 市民参加による自然林の復元調査（継続）	実施主体	NACS-J
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	人工林から照葉樹林の復元に必要な具体的手法を決定していくために、自然林に隣接する人工林、二次林において市民参加による林床調査、間伐を行い、その組成、構造、更新状態をモニタリングし、復元方法の検討に寄与する。掃部岳周辺における自然林の垂直分布に関する調査を実施する。		
<p>2010年4月16日、5月11日、11月27日、12月19日、2011年1月25日にそれぞれ町有林（4月と5月）と国有林において市民参加の林床植生調査を実施した。11月の調査は翌日実施される間伐予定箇所において事前の調査を行った。また、12月と1月に実施した調査は2006年10月21日に実施された調査の5年目の再調査にあたる。間伐を行ったため明るくなり乾燥しやすくなるなど環境が変わったためイヌビワやクサギなどパイオニア種が新たに見られた。また、イスノキやヤブニッケイなど林床に見られた実生が少なくなり、やはりパイオニア種であるヒサカキが増加していた。全体の実生種数は30種から26種に減少していた。マンリョウやマツカゼソウなどシカが食べない植物が増加している傾向も見られることから今後も引き続き復元の状況を観察していく必要がある。</p> <p>調査の成果は「市民参加による自然林と人工林における林床植生調査」というタイトルで2011年5月21日に開催された国際照葉樹林サミットにおいてポスター発表を行った。</p> <p>その他の調査として2010年10月13日式部岳においてブナ林の植生調査（20m×20mのプロットを設置し、毎木調査と林床植生調査を実施した）、2月19日大森岳周辺データロガーのデータ回収を行った。</p>			
			
2006年11月24日		2011年1月25日	

6-2-②

事業名	里山里海 SGA レポート（綾の過去50年の生態系サービスの変化とその要因）の出版	実施主体	NACS-J
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	綾の過去50年の生態系サービスの変化を明らかにした里山里海サブグローバル評価の取り組みを行いクラスターレポートとして提出し、内外に綾の取り組みをアピールするとともに一般に読むことができる印刷物として出版する。		

国連大学高等研究所が2010年10月に開催されたCBD-COP10に合わせて準備していた里山里海サブグローバル評価の西日本クラスターレポートの作成にあたり協力をした。その成果は「日本の里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ 西日本の経験と教訓」という報告書としてまとめられた。また、綾町における過去50年の生態系サービスの変化については「宮崎県綾町周辺の過去50年間の生態系サービスの変化とその要因」という報告書として日本自然保護協会がとりまとめ、てるはの森の会協力のもと印刷した。その結果は照葉樹林を保全し、有機栽培農業を推進してきたことで綾町全体の人間の福利は向上したと考えられるが、その背景には洪水を抑制し農業を推進するためにダムを建設したことでアユの生産量が減少するなど一部の生態系サービスの減少を伴うものでもあった。報告書の最後には今回調査した内容に関しての関係図を示し、要因間の関係についても考察した。

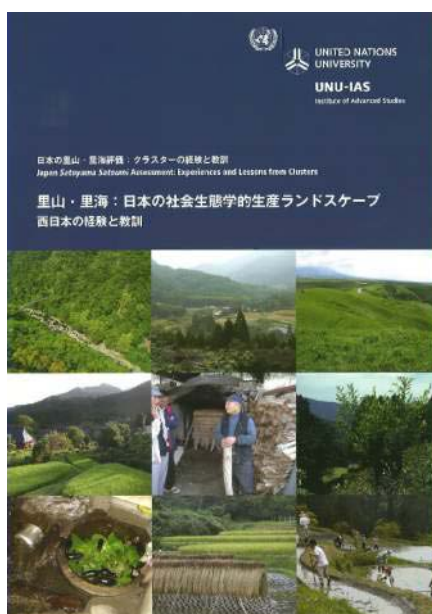


図1 国連高等研究所発行里山里海SGAサブグローバル評価西日本クラスター報告書（2010年3月発行）

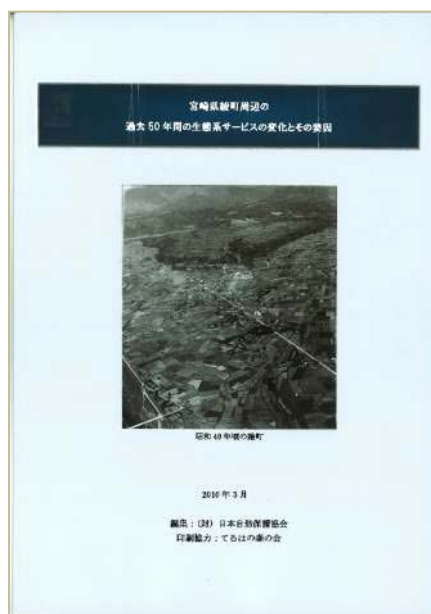


図2 日本自然保護協会発行綾町における過去50年の生態系サービスの変化に関する報告書

6-2-③

事業名	ホームページ等の充実	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトで実施している取組について、局ホームページ等に掲載し広く情報を発信した。		
<p>九州森林管理局ホームページ「森への招待」（綾の照葉樹林）や「広報九州」に、連携会議、ボランティアによる復元作業、事業説明会について掲載した。</p> <p>「綾の照葉樹林プロジェクト」ホームページアドレス http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/index.html</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="172 927 748 1335" style="width: 45%;">  </div> <div data-bbox="790 927 1430 1164" style="width: 45%;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="188 1357 699 1395" style="width: 45%;"> <p>【綾照葉樹林プロジェクト待ち受け画面】</p> </div> <div data-bbox="790 1189 1430 1429" style="width: 45%;">  </div> </div>			

6-2-③

事業名	普及啓発事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
		連携先	全
事業概要 (目的)	ホームページの作成やニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の広報活動を行なう。 ホームページ上にて報告書を掲載。		

○てるはの森の会のホームページ
<http://www.teruhanomori.com/>

○てるはの森の会事務局ブログ
<http://blog.canpan.info/teruha/>

○2009 綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画報告書
<http://blog.canpan.info/teruha/img/201/2009houk>



○広報誌「照葉樹林だより」の発行
(年4回発行)

- ・第22号 6月25日発行
- ・第23号 9月20日発行
- ・第24号 12月20日発行
- 第5回照葉樹林研究フォーラム要旨集(2010年)
- ・第25号 12月20日発行
- ・第26号 3月20日発行

第5回照葉樹林研究フォーラムの要旨集を、全4回と同様、「照葉樹林だより」の一部に組み込み発行しました。表紙上部にあるISSN番号や号数・ページ数を国立国会図書館へ知らせて文献請求できるようになりました。

○てるはの森の会パンフレット

てるはの森の会活動紹介

①綾の照葉樹林プロジェクト事務局
プロジェクトの活動の進捗や、照葉樹林についての情報提供をしています。

②復元作業
照葉樹林の復元を目指してスギやヒノキを伐採除去しています。

③地域づくりワーキンググループ
多くの人に本プロジェクトへ参加してもらい、活動の輪を広げようとする取り組みです。構成メンバーは主にボランティアです。

④ガイドボランティア
照葉樹林の多様な野生や森の生態を知ってもらい、綾川流域の自然の魅力を伝える活動を行っています。

⑤照葉樹林研究フォーラム
市民・研究者が行っている調査研究の最新情報を発表の場を提供しています。

⑥「照葉樹林だより」の発行
照葉樹林の調査報告を中心に、プロジェクトの活動や、会の行事案内などを毎月発行し、年4回発行しています。

会員になりませんか
プロジェクトの一員として照葉樹林の保護・普及活動に参加し、お楽しみながら活動もできます。

【入会に必要の年会費】
個人がポート会員：2,000円
家族がポート会員：3,000円(家族)
団体サポート会員：一口5,000円
法人サポート会員：一口10,000円

会員になること
①活動情報の告知や案内をお届けします。
②社会活動のイベントやボランティア活動に参加できます。



綾の森をもっともっと知りたい 照葉樹林ボランティアガイド
入会者の内中、多くは自然を愛する方です。自然を愛するボランティアガイドの役割を担って活動しています。

【お問い合わせ先】
てるはの森の会事務局
TEL:099-738-7388
FAX:099-738-7389
E-mail: teruha@teruhanomori.com



照葉樹林だより 第26号

6-2-④

事業名	照葉樹林文化シンポジウム運営補助	実施主体	綾町
事業概要 (目的)	実行委員会へ運営補助をする。 昭和60年3月に「照葉樹林都市宣言」をし、その年に第1回照葉樹林文化シンポジウムが開催され、今回で15回を数える。 今回は「森がある」ことのしあわせをテーマに、シンポジウムを開催した。		
<p>3月20日(日) 綾北川沿い及びてるはの森の宿</p> <p>照葉樹林シンポジウム 13:30～ てるはの森の宿 挨拶 綾町長 上野会長 約50名の参加</p> <p>基調講演 14:00～ 鈴木素直氏 (日本野鳥の会) 「鳥は人のところでなくか」</p> <p>パネルディスカッション 15:00～ 上野会長、鈴木素直 美郷町より2名 コーディネーター 郷田美紀子</p> <p>森にふれる (雨の為中止)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>基調講演</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>シンポジウム</p> </div> </div>			

6-2-④

事業名	第5回照葉樹林研究フォーラムの開催	実施主体	てるはの森の会
		連携先	全 上畑公民館（綾町）
事業概要 (目的)	「国際照葉樹林サミット」の前夜祭として、綾町上畑公民館を会場に住民と研究者が身近に接することのできるフォーラムが企画された。 「国際照葉樹林サミット」が、口蹄疫による非常事態宣言にて延期されたため、当初予定より、規模を縮小し、綾町民とてるはの森の会会員のみの参加で開催された。公民館婦人会の手づくりの料理で交流会が開催され、好評であった。		

○第5回照葉樹林研究フォーラム～照葉樹林の自然と生活～



講演会の様子



質疑応答

日時 2010年5月21日(金)15:00～18:00

場所 綾町上畑公民館 入場料 無料 参加者 56名

主催：照葉樹林研究フォーラム実行委員会・てるはの森の会・綾町・上畑公民館

後援：国際照葉樹林サミット実行委員会

◆ プログラム

◆主催者あいさつ

「てるはの森の会」代表 上野 登
綾町長 前田 穰

◆研究発表

- 1 ペー族の絞り染め～伝統から現代へ～金少萍（雲南大学西南边疆少数民族研究センター）
- 2 雲南花紀行 魯元学（中国科学院昆明植物研究所）
- 3 自然との共生ブータン西部のフォブジカ溪谷におけるオグロゾル保護の一例
ペマ・ワンダ（ブータン農業省再生可能自然自リサーチセンター）
- 4 照葉樹林の中の竹細工 月脚祐子（綾町竹細工作家）

◆交流会

交流会は50名程の参加があり、公民館婦人部手づくりの料理がふるまわれ、大いに交流が行われた。

6-2-⑤

事業名	国際照葉樹林サミット 2010	実施主体	国際照葉樹林サミット 実行委員会
事業概要 (目的)	「国際照葉樹林サミット」は、宮崎県での口蹄疫の発生を受け、延期した。国連の定める「国際生物多様性の日（5月22日）」に東アジアに広がる照葉樹林をテーマとして、照葉樹林の特性（生物多様性）やそれらが育んできた文化や歴史、森林の保全と利用への取組状況に関する情報の交換を通じ、その重要性を再認識するとともに、照葉樹林を次代によりよい形で引き継ぐことを広くうったえることを目的として開催される予定だった。		

「国際照葉樹林サミット」は、口蹄疫による宮崎県の緊急事態宣言を受け、5月18日延期となった。

- 主催者：「国際照葉樹林サミット」実行委員会
 （九州森林管理局、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会、総合地球環境学研究所、NPO法人ひむか維森の会、宮崎県木材青壮年会連合会）
- 日時及び開催場所
 期間：2010年5月22日～23日 開催場所：綾町公民館文化ホール
- 参加予定者数

日	内 容	参加予定者数
21日	照葉樹林研究フォーラム	70名
22日	講演会(基調講演・分科会・全体会)	344名
23日	エクスカージョン(現地見学会)	163名

延期決定日には、海外からのゲストが日本に到着していたため、21日夕方から、綾町上畑公民館にて前夜祭「照葉樹林研究フォーラム」を綾町民とてるはの森の会会員を中心に56名(講師・スタッフ含)で開催した。たいへん好評であった。1年後同時期開催で準備をすすめている。



チラシ表



チラシ中

6-2-⑤

事業名	事業説明会の開催	実施主体	九州森林管理局
		連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾町民の方々に事業説明会を開催し、各機関の取組等を説明した。		
<p>綾町民の方々に綾の照葉樹林プロジェクトの取組状況を説明する事業説明会を、綾町高年者研修センターで開催した。今年、各関係機関から、①照葉樹林の保護・復元の取組（宮崎森林管理署）、②宮崎県の保護・復元の取組（宮崎県）、③調査データの蓄積と共有（日本自然保護協会）、④「ユネスコエコパーク」について（綾町）、⑤MAB 計画委員会綾視察について（てるはの森の会）と題し、プロジェクトが発足して5年間の取組と成果を中心に説明を行った。</p> <p>説明会には地域住民等約 100 名が参加し、予定時間をオーバーした熱の入ったものとなった。</p> <p style="text-align: center;">説明会の様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			

6-3-①

事業名	環境学習事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	①照葉樹林ガイドボランティア実践活動 ②プロジェクトの視察 ③綾の沢調査の実施協力		

①照葉樹林ガイドボランティア実践活動

綾町照葉樹林の代表的景勝地大吊り橋周辺遊歩道2kmをボランティアガイドの案内で散策する。今年度前半は宮崎県内で口蹄疫が発生、12月から大吊り橋が改築工事のため渡れなくなったため、来場者が激減した。

3月26日は昨年に続き上畑体験ツアー（企業向け）を実施した。

参加者合計 14回 213名

実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数
4月	なし		8月	なし		12月	1回	15人
5月	1回	1人	9月	1回	2人	1月	なし	
6月	1回	2人	10月	3回	25人	2月	2回	20人
7月	なし		11月	4回	115人	3月	1回	33人

②綾の照葉樹林視察の対応

参加者合計 7回

- ・取材対応（4/9 金）MR Tラジオスクーパー
- ・取材対応（4/29 木）MR Tラジオスクーパー
- ・視察対応（10/15 金）ラオス（JICA）
- ・視察対応（10/20 水）環境省委員
- ・視察対応（10/26 火～28 木）MAB計画委員
- ・取材対応（11/11 木）共同通信（正月号）
- ・視察対応(12/9 木)御殿場市高根地区まちづくり



ユネスコ MAB 計画委員視察

③沢調査

- ・日本水文・水資源学会大会（9/8）ポスター発表
「宮崎県綾町の照葉樹林帯における河川流量の減少と拡大造林との関係」
- ・論文発表「宮崎県綾町の森林流域における河川流量の減少を引き起こす要因」（英文）
Hydrological Reaserch Letters 5, 21-26 (2011)
Factors affecting long-term reduction in river flow in a large forested catchment in Aya, Miyazaki Prefecture, Japan.
Hayashi Yumiko, Takagi Masahiro, Kodera Koji, Kuraji Koichiro, Murakami Tetuo.
- ・日本陸水学会弘前大会（9/20）発表
「宮崎県綾町の照葉樹林の溪流のコバントビケラなどの水生昆虫」

6-4-①

事業名	森林セラピー基地整備事業	実施主体	綾町
事業概要 (目的)	日本有数の照葉樹林地帯である綾町は、平成19年3月22日に「森林セラピー基地」としての認定を受けた。そこで照葉樹林を含めた森林地帯をますます有効な地域資源として活用するため、森林・産業・観光・健康増進を組み合わせ、地域振興に資することを目的とする		
<p>① 森の案内人定例会</p> <p>森林セラピーに従事していただく森の案内人（17名）による定例会を開催。毎月定例にすることで、案内人同士のセラピーに対する考え方の統一性を図り、またお互いの情報交換の場であったり、スキルアップにも繋げている。</p> <p>またそれぞれで部会を作り、今後のイベント（ツアーなど）等の企画立案を行ったり、マップやPRチラシを作成するなど、積極的に森林セラピーの推進に努めている。</p> <p>② 森林セラピー関係機関会議</p> <p>九州・沖縄森林セラピー基地で設立を予定している「九州・沖縄森林セラピー基地ネットワーク会議」への設立にむけての会議や研修会に参加し、各基地と情報交換を行った。</p> <p>③ コース等整備</p> <p>森林セラピーコースの充実化・安全性を高めるためコースの整備を行った。また、新たなコース設定のための整備も行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="264 1379 825 1798">  </div> <div data-bbox="900 1386 1453 1798">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="363 1848 651 1881">森の案内人の会定例会</div> <div data-bbox="1070 1848 1241 1881">セラピー体験</div> </div>			

7-1-①

事業名	地域づくりワーキングの設置と運営	実施主体	てるはの森の会
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域づくりWGは、綾プロジェクトの推進体制や当プロジェクトを活用した地域振興等に関する事項を検討することを目的とする。 ①6/10 ②7/1 ③8/5 ④9/9 ⑤10/7 ⑥11/26 ⑦1/13 ⑧2/3⑨3/22 の全9回実施		

綾プロ連携会議に地域づくりWGから、ユネスコエコパークの指定申請に向けて取組ように提言した。また、ユネスコエコパークの審査委員である国際MAB委員来綾に際し、地域づくりWGがパワーポイントを使い、綾町の紹介を行った。たいへん好評であった。

今後は、ユネスコエコパークを活用した町づくりのために、新しい綾町マップを製作する予定である。



会議の様子



MAB 委員歓迎会

回	日 程	講 座 内 容	参加人数
1	H22.6月10日(木) 19:00~21:00	今年度の地域づくりWGについて MAB計画について	11名
2	H22.7月1日(月) 19:00~21:00	地域づくりWGからの提言	10名
3	H22.8月5日(木) 19:00~21:00	講義「景観維持及び優れた景観づくりのための条例等の施策」について 提言を推進するためには	8名
4	H22.9月9日(木) 19:00~21:00	報告：第12回連携会議での提言について MAB計画委員来綾について	9名
5	H22.10月7日(木) 19:00~21:00	MAB計画委員来綾について ・町民によるオリエンテーション	8名
6	H22.11月26日(火) 20:45~22:45	MAB計画委員歓迎会 ・町民によるオリエンテーション	11名
7	H23.1月13日(木) 19:00~21:00	MAB計画の広報方法について	5名
8	H23.2月3日(木) 19:00~21:00	ユネスコエコパークを利用した町づくり	7名
9	H23.3月22日(火) 19:00~21:00	ユネスコエコパークを利用した町づくり 「国際照葉樹林サミット2011」について	10名

7-1-②

事業名	照葉大吊橋ビジターセンター運営事業	実施主体	てるはの森の会・
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」(1F:無料休憩所、照葉樹林に関するパネル等を展示するネイチャーセンター、3F:飲食物を提供する軽食堂)を運営する。		

○3F:飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」、土・日の週2日の営業。
 昨年9月より綾照葉樹林大吊橋架け替え工事に伴い、閉店中。



書籍等の販売



食堂のようす



1Fネイチャーセンター

○2F 和室をガイド及び作業道具置き場として活用

7-1-③

事業名	ふれあい調査の実施(古屋地区)	実施主体	NACS-J
		連携先	てるはの森の会 綾町
事業概要 (目的)	町民参加により綾地域における人と自然とのふれあい、地域の人たちが大切にしている自然、ふれあいについて把握する調査を実施する。その結果を「ふれあいマップ」に表示したり、冊子にまとめるなど人々の思いや自然とのかかわりを可視化する。これを照葉樹林プロジェクトにおける地域づくりの資料として活用し、綾の照葉樹林と共存する地域の人たちが望む持続可能な地域づくりの実現につなげる。		

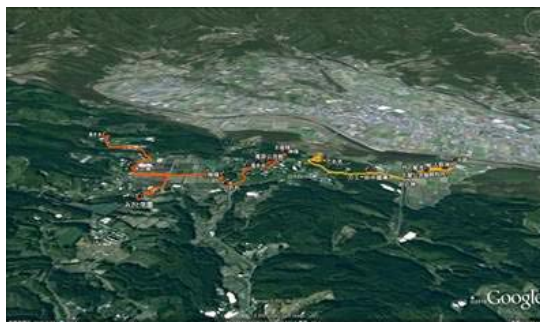
これまでふれあい調査を行って来た上畑地区とは違い、照葉樹林からは少し離れた古屋地区において、地域の人たちと自然とのふれあい(土地の自然に対する思い、生活での自然とのかかわり、照葉樹林とのかかわり等)を調べることで、地域の自然と暮らし、文化、歴史など地域の価値を再発見する。その結果を冊子としてまとめることで、人々の思いや自然とのかかわりを記録として残す。これを照葉樹林プロジェクトにおける資料として活用し、人々の思いを大切にしながら、住民参加のもと、照葉樹林の保護・復元を進めるものである。

2010年10月18日に古屋地区の公民館において公民館長、東京大学の鬼頭先生らと共に計画の打ち合わせを行った。その際に地域を歩き、現地調査を行った。また、古屋地区にある大平山、古屋、尾原の3つの地域でそれぞれ10月22日、11月11日、2月28日に聞き取り調査を実施した。これらの結果に基づき、3月1日に再度打ち合わせを実施し、これまでの調査の話をもとめた結果、古屋地区における自然とのふれあいは以下の8つに分類された。

- ①水の苦勞：綾南川よりも高い位置にあり水が少なく生活に苦勞した
- ②池干：そのため、集落には古屋池があり、毎年池干を行っていた。
- ③三本松：昔、草刈り場に松が3本立っていた。
- ④川と橋：綾の街中に行くための橋の位置のはなし
- ⑤田んぼや岸のかわはぎ(あぜきり)
- ⑥牛馬・馬車：昔は馬車が通っていた
- ⑦地域に根ざした神様
- ⑧郷土料理



2010年10月18日の調査



同日、現地調査のルートと発見したもの



2010年4月4日(宮日)

照葉樹林文化館 一新しオープン

綾 展示物や専門書充実

綾町南側の照葉大吊橋そばにある「照葉樹林文化館」が3日、新装オープンした。展示物や図書コーナーなどを充実させ、国内最大規模を誇る照葉樹林に親しみやすい内容

となり、町によると、文化館は1986(昭和61)年3月開館。当時から展示物はほとんど変わっておらず、関係者から一新を求める声が上がっていた。入り口に高さ約3メートルの大形パネル10枚を設置。イチイガシ、スタジイ、イスノキなど代表的な照葉樹を紹介している。森林に関する専門書の図書コーナー、照葉樹林の保護・復元事業を説明するパネルも新設。動物のほく製や木の標本など既存の展示物もレイアウトを工夫し、見やすくした。

前田穂町長は「照葉樹林文化を学び、森林学習をする場所として活用していきたい」と話す。入館無料だが、大吊橋の通行料は別途必要。リニューアルされた照葉樹林文化館入り口に設置された照葉樹の大形パネル

照葉樹林文化館 改装オープン 宮日新聞 2010年4月4日



綾町と森歩きのHP開設 セラピーとツアー紹介

国内最大規模を誇る照葉樹林に親しみながら、綾を歩く森歩きの魅力を伝えるホームページを開設した。チラシ3千枚も作製、7日から町内外で配布を開始した。関係者は「綾の森には二つの歩き方がある。好きな方で森を楽しんでほしい」と呼びかけている。町内では10月

の森の会が町内各所の照葉大吊橋遊歩道をガイド付き体験ツアーと、町内森林セラピー推進協議会が川中自然公園での森林セラピー体験をそれぞれ行っている。HPでは、同会のガイド付き体験ツアー「照葉樹林文化を学ぶ」と、同協議会の森林セラピー「森の中でゆっくりと歩ける」というテーマで、二つの森歩きの魅力を紹介。参加申込もオンライン上でできる。照葉樹林に関する情報を集めたコーナーもある。HPは、綾町HPの「森林セラピー」から開設された。

綾町 森歩きのHP開設 宮日新聞 2010年5月8日

2010/5/16 (日) 宮日

第3種特別用途許可

綾町・22日から国際照葉樹林サミット

照葉樹林の保護や復元、生物多様性の回復について国内外の研究者や自然保護団体などが話し合う「国際照葉樹林サミット」(国実行委主催)が22、23日、綾町で初めて開催される。「サミットを契機に照葉樹林保護のネットワーク化を図りたい」「国際的な価値を高めた」「関係者の期待は熱い」。

◇(東証)副会長・甲斐亮児

◇綾町中心部において、森林保護と生物多様性保存の国際的連携を促進する。サミットの意義は大きい。「国際的な価値を高めた」。

森の復元 世界へ発信

綾町中心部において、森林保護と生物多様性保存の国際的連携を促進する。サミットの意義は大きい。「国際的な価値を高めた」。

綾町中心部において、森林保護と生物多様性保存の国際的連携を促進する。サミットの意義は大きい。「国際的な価値を高めた」。

生態系保護 連携に期待

綾町中心部において、森林保護と生物多様性保存の国際的連携を促進する。サミットの意義は大きい。「国際的な価値を高めた」。

綾町中心部において、森林保護と生物多様性保存の国際的連携を促進する。サミットの意義は大きい。「国際的な価値を高めた」。



国内最大規模を誇る綾町の照葉樹林。サミットでは国内外の照葉樹林の保護や復元などについて話し合う

2010/5/3 (月)

国際照葉樹林サミット

綾町中心部において、森林保護と生物多様性保存の国際的連携を促進する。サミットの意義は大きい。「国際的な価値を高めた」。

ふるさと ナビ

2010/5/9 (日)

照葉樹林保護考えよう

綾町で22、23日 初開 サミット

生物多様性など議論

綾町中心部において、森林保護と生物多様性保存の国際的連携を促進する。サミットの意義は大きい。「国際的な価値を高めた」。

国際照葉樹林サミット開催
宮日新聞 2010年5月16日 他

宮日 2010 5/28 (金)

口蹄疫(フット・アンド・マウス)の非常事態宣言の発表以降、東諸でも多くの行事が延期・中止となった。中でも、今月綾町で開催予定だった国際照葉樹林サミットの延期は、関係者にとっては苦悩の決断だったのだろ。ただし、照葉樹林を守り、次世代へ引き継ごうという志を持った人々が、サミット成功に向けて手を取り合

鬼の洗濯岩

い、知恵を出し合ったことで、けでも大きな収穫だ。サミット実行委の事務局を務めた民間団体・てるはの森の会のホームページには「次回開催のご案内を必ず致します」とあり、関係者の熱意は少しも衰えていない。口蹄疫が一刻も早く終息し、再びサミット開催の日程が発表される日を心待ちにしている。(完)

国際照葉樹林サミット延期
宮日新聞 2010年5月28日

綾町が誇る国内最大規模の照葉樹林の写真や資料を集めた企画展が、同町の綾てるは図書館で開催されている。同館では貴重な照葉樹林への理解を深めてほしいと期待している。写真は、フロッコリー状の

綾てるは図書館

照葉樹林理解深めて

企画展 森林セラピー紹介も

宮日 2010.6.20 (日)



照葉樹林の写真や資料を展示している企画展

綾町が誇る国内最大規模の照葉樹林が広がる森を紹介しているものなど約20点が展示。3月にオープンした森林セラピーに関するコーナーでは、コース図やセラピー体験の様子などが分かるほか、照葉樹林内の植物や動物の写真も並んでいる。

文獻は「照葉樹林研究フォーラム」の要旨集や、森の沢の調査報告書など。森とともに営まれてきた生活の様子を記録した写真集も展示している。また、市民らで照葉樹林を保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」についても説明している。

綾てるは図書館の企画展
宮日新聞 2010年6月20日

事業が完結するのははるか先だ。国内最大規模を誇る綾町の照葉樹林を保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」(綾プロ)は、世代を超えて引き継がれていく壮大で先進的な取り組み。どこまでも広がる照葉樹林を想像するだけでも楽しい。森の中で照葉樹が芽吹いているのを見たことがある。まだ小さいが、

宮日
2010
6/25
(金)

鬼の洗濯岩

関係者が復元への願いを託す希望の象徴だ。将来、どんな困難に見舞われても、関係者の熱意で乗り越えてほしい。何事も先駆者は大変だが、その後を森を守る志のある人がきつとついでに。綾プロには間伐ボランティアなど市民が携わることでできる事業もある。興味がある人はぜひ参加してほしい。(亮)

綾プロの紹介

宮日新聞 2010年6月25日

6.29朝日

郷土の本
照葉樹林って何だろう？
上野登著

常緑の広葉樹林を意味する「照葉樹林」という言葉。綾町には、日本最大級の照葉樹林帯が残されているという。

宮崎大学名誉教授の著者は、綾町長として森林を守り独自の町づくりを進めた

故・郷田實さんの考え方と実績を紹介。自らも綾町の森の「保護」「再生」「復元」運動に取り組んだ経緯を記している。

さらに「照葉樹林は綾だけではない」として、県央・県南の照葉樹林を回廊のように「復元」しようという動きにも触れる。

クスや茶、シソなどの食文化、絹や漆などの生活・工芸品を育んだ照葉樹林。著者は文化の側面からも照葉樹林の重要性を訴える。

(丸)
鉦脈社、1400



本の紹介 「照葉樹林って何だろう」

朝日新聞 2010年6月29日

綾町が9月上旬から架け替える予定の照葉大吊橋



官日 2010/08/03 (火)
完成26年

綾大吊橋 架け替え

綾町は、完成から26年経過した同町南側の照葉大吊橋（てるはおおつりばし）

の架け替え工事を9月上旬から始める。完成は来年4月を予定。現在の橋の形と

ほぼ同じで、手すり部分のデザインを变えたいという。同町の観光スポットでもあり、工事中も現場近くで作業の様子を見学できるようにする。

町によると、長さ2500m、高さ14.2mの照葉大吊橋は1984（昭和59）年3月に完成した。照葉樹林都市・綾町のシンボルとして、年間約14万人が訪れる県内でも人気の観光スポット。雄大な自然と触れ合える場所としても親しまれてきた。

来月 来年4月完成予定

照葉大吊橋そばに立つ照葉樹林文化館は工事中も引き続き開館。同町産業観光課では「リニューアルされた照葉大吊橋にたくさんの人に来てもらい、照葉樹林の素晴らしさを知ってほしい」と話している。

綾の照葉大吊橋架け替え
宮日新聞 2010年8月3日

世界の

照葉樹林

「エコパーク」目指す綾町



● 上 ●

国内最大規模を誇る綾の照葉樹林を、「ユネスコ・エコパーク(生物圏保存地域)」に。綾町は「世界自然遺産」と並行して、同じユネスコの認証制度である「エコパーク」の登録を目指している。「自然との共生」という町の方針と重なる理念に、関係者の期待も高まっている。

(東諸支局長・甲斐亮 児)

「先人から受け継いだ綾の森を世界の宝物にした」。綾町の前田穰町長は、登録への思いを力強く語る。自然保護に重きを置く世界遺産に対し、「人と自然との共生」を重視するエコパーク。綾のまちづくりは、まさに自然との共生

の上に成り立ってきた。1973(昭和48)年か

と町の動きを支持する。「ト」に力を入れる。照葉樹林の保護活動に携わる元東京大大学院教授で、マラヤ大学(マレーシア)教授の大澤雅彦さん(64)は「綾町はすでに(エコパークの)考え方を先取りしている」

高まる地域ブランド

意義

エコパークに認定されれば、その価値が世界的に認められるのはもちろん、観光の増加や農産物の付加価値アップなど、長年積み上げてきた「綾ブランド」がさらに高まる「A」が期待される。

メ モ

ユネスコ・エコパーク人間と自然との共生に向け、ユネスコが策定した「人間と生物圏計画(MAB計画)」の主要事業。登録された圏域は原生的な自然を厳重に保護する「核心地域」、教育や学術研究

誘客や産業振興に効果



照葉大吊橋から臨んだ照葉樹林。ユネスコ・エコパークへの登録を目指している

世界遺産に比べると国内での知名度は低いですが、日本MAB計画委員会事務局(横浜市)は「ユネスコの国際認証というブランド価値は世界に浸透している。特に欧州では世界自然遺産と並んでエコパークが活用

されている」と指摘。エコパークの登録地では、エコツアーなどによる観光客誘致や地場産業の振興が盛んで、地域活性化にも貢献しているという。

大澤さんは「世界の自然保護をリードしていく制度。綾が認定されれば、国内のほかの地域の管理運営にも大きな影響を与えたい」と意義を語った。

「エコパーク」目指す綾町 上
宮日新聞 2010年8月23日

2010年(平成22年)8月24日 火曜日 社会 (22)

宮日

世界の

照葉樹林へ

「エコパーク」目指す綾町



● 下 ●

「人と自然との共生」を掲げるユネスコ・エコパーク(生物圏保存地域)の登録には、積極的な住民の参加が欠かせない。

綾町では、これまで、照葉樹林の保護・復元を目指す活動が行われてきた。2005年に始まった「綾の照葉樹林プロジェクト」もその一つ。この中に設置された地域活性化のワーキンググループ(17人)は、今月、「登録されれば」住民が照葉樹林の恵みと保全について学ぶ機会になる」と、エコパークへの積極的な取り組みを町に提言した。

展望

住民の積極参加が鍵

国内候補地の選定をクリアすれば、パリのユネスコ事務局に申請書が送られ、来年秋にも結論が出るという。綾町は、国際会議出席のため10月に来日するユネ

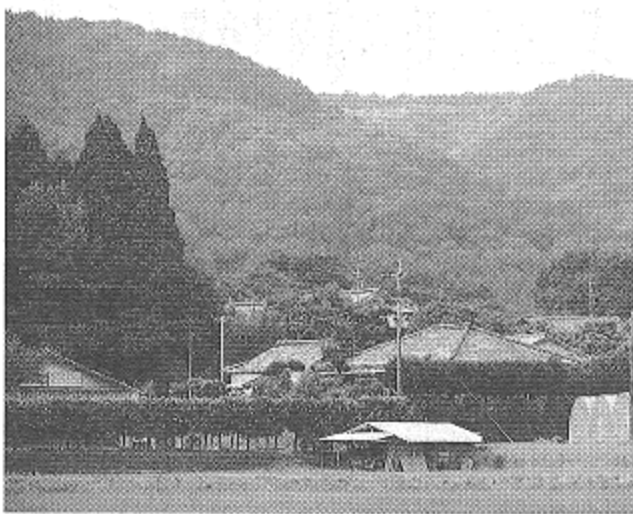
同町の上畑自治公民館の小西俊一館長(55)は「活動を通じて住民も少しずつ綾の森の価値を感じ始めている」とし、「エコパークへの取り組みを通じてさらに

国内候補地の選定をクリアすれば、パリのユネスコ事務局に申請書が送られ、来年秋にも結論が出るという。綾町は、国際会議出席のため10月に来日するユネ

メモ

ユネスコ・エコパーク登録の要件 申請書は全20項目。地形、地質、気候、生物相、生態系といった自然科学的な記載だけでなく、エリアに含まれる里山地域の社会的、歴史的、文化的、経済的概要についても記載する必要がある。また、登録に際しての住民の合意形成のプロセスや、認定後の管理運営体制の中に住民参加の仕組みがあるかどうかなども問われる。認定後は、保全管理がきちんとなされているかを定期的に調査される。

森の価値少しずつ浸透



照葉樹林のふもとに広がる綾の風景。「人と自然との共生」が受け継がれている

スコ関係者を町に招き、PRする計画も練っている。関係者によると、国内の町照葉樹林文化推進専門監の河野耕三さん(62)が力を込めた。「成功すれば、国内でも綾を見習い手を挙げ、エコパークを前面に出る自治体が増える」と出ている。一方の綾町は、国際的な「ユネスコブランドを活用したまちづくりを」に力を入れている。綾町は、町照葉樹林文化推進専門監の河野耕三さん(62)が力を込めた。「成功すれば、国内でも綾を見習い手を挙げ、エコパークを前面に出る自治体が増える」と出ている。一方の綾町は、国際的な「ユネスコブランドを活用したまちづくりを」に力を入れている。

「エコパーク」目指す綾町 下
宮日新聞 2010年8月24日



間伐後、そのままに放置されているスギ。宮崎文化本舗の事業では有効利用につなげたい考え(てるはの森の会提供)

宮崎文化本舗 2010年8月31日 環境省モデル事業選定 間伐材使い製品開発

環境省が公募していた自然資源を活用・保全するモデル実証事業に、宮崎市のNPO 法人「宮崎文化本舗」(石田 達也理事長)が申請した間伐材を中心とした木工製品の開発・販売事業が選ばれた。同法人は、官民5者で綾の照葉

樹林を保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」(綾プロ)の事務局・てるはの森の会を運営。事業収益で運営基盤を強化し、間伐材の有効利用につなげたい考えだ。

2005年から始まった綾プロでは、スギなどの人工林を間伐して日光が地面に届くようにし、動物や風が運んでくる照葉樹の種の自然な芽吹きを促す取り組みが続いている。ただ、民間ボランティアが間伐を行った間伐材は搬出コストが掛かることもあり、そのまま放置され、利用が進んでいないという。

同法人はこの課題を解決するため、事業に手を挙げることにした。来月にも間伐材を使ったインテリアグッズなどの開発をスタート。来年3月までに製品開発や販売計画の作成などを終え、来年度から

売り込みを始める計画。モデル実証事業に選ばれたことで、環境省から補助金が出るほか、専門家のアドバイスが受けられる。

石田理事長は「間伐材を生かす仕組みづくりを進めて、綾プロの活性化にもつなげたい」と話していた。

間伐材使い製品開発
宮日新聞 2010年8月31日

2010.10.11. 朝日新聞

14

第3種郵便物認可

綾の照葉樹林復元活動発展

綾の照葉樹林(綾町)の森の保護と復元を自
指し、スギの間伐を進める「てるはの森の会」
を運営するNPO法人「宮崎文化本舗(宮崎
市、石田達也代表理事)が、環境省が公募し
た事業型の環境NPOなどを支援するモデル
実証事業に採択され、間伐材を活用した木工
製品の販売に乗り出す。石田代表理事は「間
伐材の活用で継続的な事業が可能となり、森
の復元につながる」と期待する。(山下哲弥)



間伐されたまま放置されたス
ギ。木工製品への利用が森復元
につながるかと期待する「綾町

スギ間伐材 木工製品に



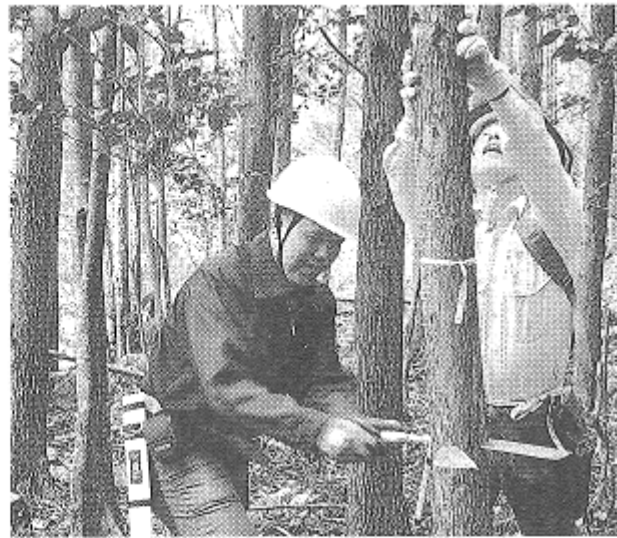
スギの間伐材で試作されたポ
スター用の木枠(いずれも
「てるはの森の会」提供)

現在、試作品を製作中で、11月上旬
の「東京おもちゃ美術館」や、来年1
月に宮崎市のアートセンターで開く同
美術館のイベントなどに出席する。
この環境省の事業は、公的資金に依
存しがちな多くの環境関連のNPOや
公益企業、民間企業が自立したビジネ
スができるよう、モデルづくりを支援
する目的で始まった。今年8月、30件
の応募のうち8件が採択された。同本
舗の事業は、間伐材を活用した商品の
開発販売で自主財源を確保し、綾の照
葉樹林の保護・復元を推進するという
内容となっている。
事業を担当する「てるはの森の会」

NPO事業を 放置、もったいない

は九州森林管理局、県、綾町、日本自
然保護協会(東京)と組織した「綾の
照葉樹林プロジェクト」の事務局を務
め、2005年の発足以来、様々な活
動を実施している。年2回、ポランテ
ィアと綾町内の照葉樹林が残る地域
で、人工林のスギ、ヒノキの間伐を続
けている。林内に日光を入れることで
照葉樹の自然発生を促すのが狙いだ。
事務局の相馬美佐子さん(51)は「間
伐したものの、運び出すにはコストも
かかり、活用方法もないため放置さ
れ、ずっと悩んできた。参加するポラ
ンティアも『もったいない』『何かに
使えないのか』と同じ気持ちだった」
という。
事業の採択を受け、さっそく地元デ
ザイナーや木工業者と連携し、ポスタ
ーパネルやパネルスタンドの試作品を
製作中。各地のイベントに出展し、来
場者にアンケートを実施して県内外の
消費者の反応を探るといふ。製品はコ
ンサルタントからのアドバイスや事業
の精査を受けた後、来年4月から販売
が開始される。
相馬さんは「間伐材の木工製品を賣
うことが照葉樹林の保護や復元につな
がる。こうしたことをアピールするこ
とで、事業が軌道に乗ればうれしい」と
話している。

スギ間伐材 木工製品に
朝日新聞 2010年10月11日



照葉樹林復元に向けたスギの間伐を体験するラオスの公務員（左）

森の復元過程感動

新聞
宮日新聞
2010年10月16日
ラオス公務員綾で研修

焼き畑農業やゴムなど商品作物の栽培によって樹木の伐採が進み、森林消失が深刻化しているラオスの公務員が綾町で森林保護などを学んでいる。15日には同町南隣の国有林で、照葉樹林復元に向けた

スギ間伐作業を体験した。同国と国際協力機構（JICA）が共同で行っている、森林の保全と持続可能な利用を進めるための計画策定プロジェクトの一環。同町の「賢治の学校綾自然農生活実践場」の

協力も受け、ラオス北部・ルアンパバン県農林業事務所の男性職員4人が訪れている。14日から18日まで滞在し、森林保護活動や有機農業を学ぶ。間伐を体験してもらったのは、官民一体で照葉樹林の保護・復元を進める「綾の照葉樹林プロジェクト」（綾プロ）をラオスでも広めてもらうため。4人は間伐によって森の中に日光が差し込むようにし、照葉樹の自然な芽吹きを促す復元方法について説明を受けた後、のこぎりやなたで樹高約12メートルのスギを切り倒していた。

森林管理や保護に携わっているチャンタボン・スリボンさん(42)は「森を復元する過程を知り感動した。行政と民間の協力の仕組みが参考になり、ラオスでも生かしたいと思った」と話していた。

ラオス公務員 綾で研修
宮日新聞 2010年10月16日

2010年10月28日 宮日

第三種郵便物認可

ユネスコが認定する「ユネスコ・エコパーク(生物圏保存地域)」登録を目指す綾町

ユネスコ関係者が綾視察 自然との共生感銘 エコパーク申請向け招待



河野さん(左)から照葉樹林についての説明を聞く
洪教授(左から2番目)、パーシック専門官
(右)、鈴木学長(右から2番目)

に27日、ユネスコ関係者3人が視察に訪れた。認定申請前に関係者へアピールしようと町が3人を招待。3人は自然に感銘した綾町のまちづくりを高く評価した。

3人は、ユネスコ本部のMAB(人間と生物圏)計画委員会のアナ・パーシック専門官、日本ユネスコ国内委員会教授。

MAB計画分科会主席で横浜国立大学の鈴木邦雄学長、韓国のエコパーク認定に携わった同国・木浦大学の洪善基教授。

照葉樹林では、河野耕三町長が、照葉樹林文化推進専門監が、保護・徳元喜喜、綾の照葉樹林プロジェクト(綾アロ)などについて説明。有機農業の現場や、綾産の木材や土を使った手工芸品、地元幼稚園のネイチャーゲームなども視察し、自然資源の利用や環境教育についても理解を深めた。

パーシック専門官は「綾のまちづくりはMABの理念と合致している。綾アロの取り組みも印象に残った」。洪教授は「市民の意識が高く、エコパークに選ばれる可能性は高いと感銘」。鈴木学長は「綾のまちづくりは自然との共生のモデルケース」と感銘を受けていた。

エコパークは人と自然の共生を目指す。ユネスコが策定

した「MAB計画」の主要事業。同町は、国際的な評価が得られれば今後の町づくりを生かせるとして、認定に向けて申請を準備している。

ユネスコ関係者が綾視察
宮日新聞 2010年10月28日

エコパーク認定目指す綾視察

ユネスコが認定する「ユネスコ・エコパーク(生物圏保存地域)」の登録を目指す綾町は、国内候補地の選定に携わる関係者ら3人を招待。認定申請前に綾の森の魅力のアピールした。関係者の一人、「日本ユネスコ国内委員会MAB計画分科会」のトップで、横浜国立大学長の鈴木邦雄さん(62)に、視察の評価やエコパークをめぐる国内外の動きについて聞いた。(聞き手 東諸支局長・甲斐亮児)



ユネスコ分科会トップ 鈴木 邦雄さんに聞く

宮日新聞
2010年10月30日

自然素晴らしい

共生推進し町が活性化

綾町の印象は。鈴木 照葉樹林をはじめとする綾町の自然は素晴らしいとあらためて思った。この自然を生かそうという町民の情熱にも感心した。

「綾町の印象は。鈴木 照葉樹林をはじめとする綾町の自然は素晴らしいとあらためて思った。この自然を生かそうという町民の情熱にも感心した。」

はななく、ともに歩んでいこうというのが世界の自然保護の流れ。「人と自然の共生を目指すエコパークへの関心は高く、現在109カ国・564地域が登録し、今も世界

すずき・くにお 東北大理学部卒。1992年から横浜国立大経営学部教授となり、経営学部長や副学長などを経て2009年4月から同大学長。宮城県出身。

「エコパークをめぐる世界の情勢はどうか。鈴木 自然を嚴重な保護で遠い存在にするので

中で登録を目指す動きがある。国内の動向はどうか。鈴木 国内の登録は4地域でエコパークの知名度はまだ低いが、世界に追い付こうと国としても今後、積極的に登録を推進していく。現在は綾町を含め、世界自然遺産の知床(北海

いる5地域のうち、最も申請への動きが活発だ。自然との共生が積極的に推進され、町が活性化している点がいい。個人的には今申請しても何の問題もないと思う。今後の課題について。鈴木 エコパークに登録されれば注目を集め、観光客も増えるだろうが、受け身ではいけない。エコパークをどう活用するかを考えておかなければならない。積極的なPRはもちろん、登録を契機にして、埋もれていた町の魅力を掘り起こす努力も必要だ。綾町がエコパークを生かしたまちづくりのモデルケースになれば、ほかの地域も登録を目指すところだろう。

ユネスコ分科会トップ 鈴木邦雄さんに聞く
宮日新聞 2010年10月30日

日向夏ミカンちゃん ユネスコが認定する「ユネスコ・エコパーク(生物圏保存地域)」登録を目指す綾町に、ユネスコ関係者の視察が来たというニュースがあったわね。この中で出てきた「MAB計画」について教えて。

記者 MAB計画は正式名称を「人間と生物圏計画(Man and the Biosphere Programme)」といい、頭文字を取ってMAB計画と呼ばれています。

ミミ どんな計画なの?

記 人と自然の共生を目指し、1971(昭和46)年にユネスコが策定した国際的な自然保護の取り組みです。エコパークはこの計画の中で、共生を促進させたり、課題解決を図ったりするための大切なモデル事業に位置付けられており、屋久島(鹿児島県)など国内4地域を含む世界109カ国564地域が登録、全世界でネットワークを組んでいます。

日向夏ミカンちゃんの質問箱

MAB計画って何？



宮日新聞 2010年11月1日

ミミ 世界的な自然保護の取り組みとして「世界自然遺産」もあるのよ、ミミ達の。

記 ミミ達もユネスコが認定するものですが、世界遺産は自然を厳重に保護下に置くのに対し、MAB計画では保護と合わせて「自然と仲良く暮らす」方法をみんなに考えさせる、実行してもらうため、自然を破壊しない範囲で積極的に利用することを推進しています。このため土地利用や水位、異遺産は厳しい制限を設けては

宮日新聞 2010年11月1日

記 多様な生物を守るための研究や啓発、生物資源の利用方法の研究など、環境問題全般に取り組みしています。研究の成果はエコパークのネットワークを通じて伝えられます。奨学金制度もあり、若い研究者を積極的に育てています。

ミミ 日本ではどんなのかな。

記 世界ではMAB計画は広く知られ、特にエコパークは観光資源や環境教育などで役立てられています。日本では知名度は低いのですが、国は今後開発と普及に力を入れていくことにしています。照葉樹林の保護も有機農業など、自然と共生した持続可能な取り組みは、MAB計画の趣旨に合致します。

記 東穂支局長・甲斐亮児

MAB 計画って何？
宮日新聞 2010年11月1日

宮日新聞 2010.11.13

要ります

◇照葉樹林復元ボランティア
28日午前8時半から、綾町南俣の川中神社周辺の国有林。照葉樹の自然な芽吹きを促すため、人工林のスキを開伐する。当日は作業ができる服装で弁当やタオルなどは各自持参。定員20人。15日締め切り。てるはの森の会 09(85)35)7288。

照葉樹林復元ボランティア募集
宮日新聞 2010年11月13日

多様な命育む森

朝日新聞 2010年11月16日

共生の痕跡、あちこちに

大深川、清武川で、豊かな森林づくりに取り組む市民団体「水源の森づくりをすすめる市民の会」(以下「市民の会」)が毎年、「森の散策」を開催している。8回目となる今年のフィールドは、日本最大級の綾町の照葉樹林。綾町照葉樹林文化推進専門監の河野耕三さん(62)の案内で、原生林の植す多様な生命と、森林の恩恵を受けてきた人の生活の痕跡をたどった。(上田 耕)



「大深川を求めて、疑い合ってまっすぐ歩いていくんです」と河野耕三さん

綾の照葉樹林を歩く

綾町役場から車約20分、同町南隣の川中自然館に参加者約40人が集まった。綾南川にかかる鋼鉄製の小さな橋が、森の入り口だ。

進むとほつつかつと開けた広場があった。かつての人家の跡だ。手入れの行き届いた芝を「管理」しているのは、実はシカ。伸びた先から食べてくれる。近くの竹を食ってはタケノコをインシキが残さず食べてしまふ。人と野生動物の生活圏が溶け合った場所だ。

河野さんの解説を聴きながら歩く。この約17分、推定樹齢で最も大きなイチイガシに着いた。直径約1.7m、推定樹齢350年。樹幹約100年ほど



綾南川沿いのわき水近くで、サワガニが岩を登っていた



綾の照葉樹林で20年ほど前の大きなイチイガシに抱きつき、耳を湿らす人も

水源の森づくりをすすめる市民の会。1996年7月、大深川、清武川の水質改善を目的とし、環境保全「森の散策」などを行って豊かな森林を育てることを目的に、会員約200人。

的に充足した。会で植樹した2カ所の「わくわくの森」の手入れや、年1回の「森づくりの講演会」「森の散策」などを行っている。会員約200人。

水源の森づくりをすすめる市民の会 綾の森を散策
朝日新聞 2010年11月16日

記者ノート



東諸支局長 甲斐 亮児
先月、名古屋市であった「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」で、日本は豊かな自然と多様な生物を守る「アイデア」として、日本の伝統的な「里山」を世界にアピールした。自然を守り、触れ合い、恩恵を受ける。里山はこの会議で日本が訴えた「自然と共生」そのもののなだ。

里山を子どもたちに

「綾の子どもたちには綾で遊ぶ体験が少ない」。農産、綾の照葉樹林の研究に携わってきた綾町照葉樹林文化推進専門監の河野耕三さん(62)は感じてきた。綾の照葉樹林では現在、市民団体の保護・復元活動が進むが、照葉樹林がよみがえっても、次代を担う子どもたちが森に関心を持たなければ意味がない。「里山は自然(人を含む)な生き生きした場所」。河野さんは期待を込める。

社会構造や生活様式の変化で人々は里山から次第に離れ、あつは開墾行為で里山自体が壊れていく。このような事態になり、ようやく里山の大切さに気づき始めた。げんたけの森ができたのはずっと先だが、森づくりで子どもたちが森を想像するきっかけもあつた。照葉樹林の復元活動、泉の長い取り組だが、関係者には最後までやり遂げてほしい。

里山を子どもたちに
宮日新聞 2010年11月22日

2011年 地域展望

開 1月8日
新 1月11日
官 1月11日
2011年1月8日

東 諸 県 郡

国富町では、昭和シェル右油100多子会社のソーラーフロンティア（東京）が世界最大級の太陽電池製造工場をCIS太陽電池の商業生産を本年度中に始める。

800人規模の雇用を予定する巨大工場で、固定資産税などの増収が見込めるのはもちろん、従業員やその家族を町内に呼び込んで商品購買などにつなげ、冷え込んだ経済を活気づけたい。町は、町内の賃貸住宅や調達可能な事務用品、飲食店の情報を細かく

要がある。町は深年、北保小の両隣校校舎への企業誘致も進めている。県内でも珍しい取り組みで、実現すれば雇用創出が期待できる。現在、興味を示している製造業などとの協議を続けている。今後の交渉の行

交流の拠点となりそうだ。嵐田では川南地区健康増進センターが4月に開館。体育館や災害時の避難場所として活用が期待される。国内最大規模を誇る照葉樹林にスポットが当たるのは綾町。5月21、22日には町公民

の判断が示されることが多い。認定されれば照葉樹林の価値は世界的に高まり、綾のブランド力は向上する。架け替え工事が進む照葉大吊橋は、4月中のリニューアルオープンを予定する。新しく生まれ変わる綾町のシンボルが、照葉樹林の魅力を引き立ててくれるに違いない。

東諸県郡も昨年は口蹄疫により消費の落ち込みや観光客減少などの影響を受けた。大きな出来事が控える今年を地域活性化に向けた好機としてほしい。かつて1市6町があった県央地域だが、単独存続の道を歩むのは国草と綾町だけに。生き残りを図るためにも特色あるまちづくりを展開できるように着目したい。

(東諸支局長・甲斐亮児)

照葉樹林世界に発信

太陽電池生産で活性化

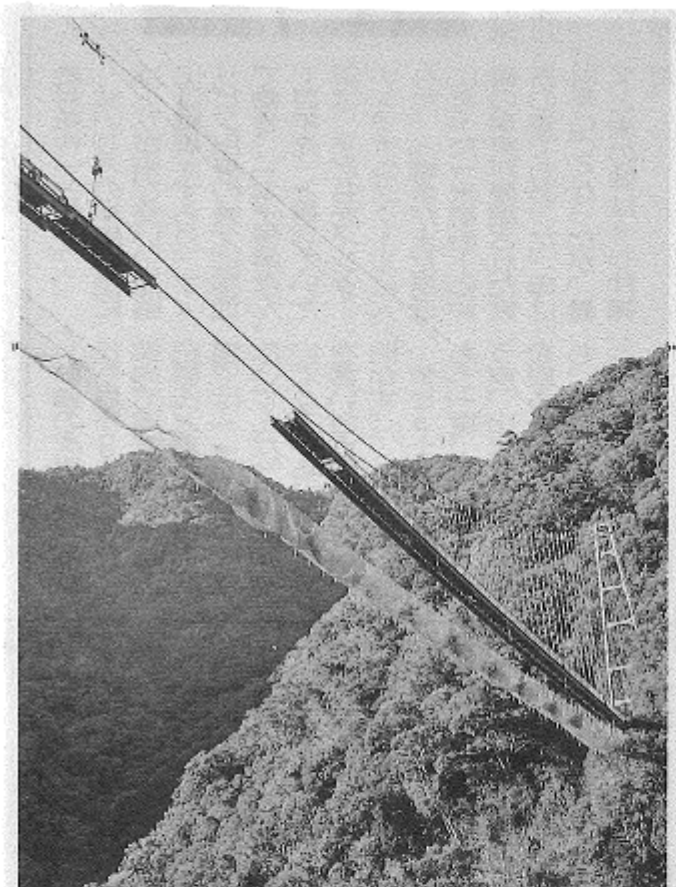
館文化ホールで国内初の「国際照葉樹林サミット」が開催される。国連が定める「国際森林年」の今年、照葉樹林の復元など先進的な取り組みを国内外に発信し、綾が中心となって世界の照葉樹林保護をリードするという意気込みを

示す場となる。ユネスコが認定するユネスコ・エコパーク（生物圏保存地域）登録への準備も進む。町などは早ければ本年度中にも国内選定機関へ登録を申請する方針で、順調に進めば9

太陽電池生産で活性化

宮日新聞 2011年1月8日

綾・照葉大吊橋
架け替え工事で
あすから閉鎖
綾町は、同町南侯の照
葉大吊橋の架け替え工事
に伴い、12月1日から来
年3月末まで大吊橋を閉
鎖する。
閉鎖中、大吊橋そばの
照葉樹林文化館は入場無
料で開館する。また、工
事現場の見学もできる。
問い合わせは町産業観
光課☎0995(7)3
464。



綾の象徴 一時の別れ

架け替え工事が進む綾 町のシンボルは主塔部分
町南侯の照葉大吊橋で、
橋本体の解体作業が13
日、本格的に始まった。
完成から26年が過ぎた綾
お目見えしそうだ。
同日によると、本体内

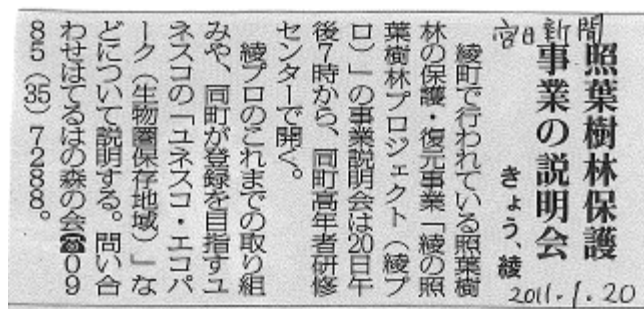
解体工事が本格的に始まり、中央の部
分が撤去された照葉大吊橋は13日午
後、綾町南侯

架け替え工事本格化

新床板は連結してあったビ
スを外し、手すりは機械
で切断し、解体したパー
ツをワイヤでつり上げて
運んでいる。
解体作業は今月いっば
い続く。その後、耐風性
を高め、手すり部分のデ
ザインを変更するなどし
た橋を架ける。4月中の
リニューアルオープンを目
指す。

照葉大吊橋
2011.1.14
高所で行われる解体は、
橋のバランスを崩さない
よう中央部分から開始。
物防止のためのネットを
上部に資財運搬用のワイ
ヤを張り、下部には落下
してきた。高さ14.2mの
設置するなど準備を進め

架け替え工事本格化
宮日新聞 2011年1月14日 他



綾プロ事業説明会開催
宮日新聞 2011年1月20日



綾プロ事業説明会開催
宮日新聞 2011年1月23日

綾・照葉樹林復元プロジェクト

間伐材パネル商品化

宮崎市のNPO法人・宮崎文化本舗(石田達也理事)は、綾町の間伐材を使用し、自然資源を活用・保全に放置されることがある四角柱形のパネルスタンドを開発し、環境省のモデル実証事業の補助金を得て、昨年から商品開発と販売計画の立ち上げを進めていた。パネルは縦約50センチ、横約73センチ、幅45センチ。同法人では今後、新商品の開発を続けるという。同法人では今後、新商品の開発を続けるという。

宮崎市のNPO法人・宮崎文化本舗(石田達也理事)は、綾町の間伐材を使用し、自然資源を活用・保全に放置されることがある四角柱形のパネルスタンドを開発し、環境省のモデル実証事業の補助金を得て、昨年から商品開発と販売計画の立ち上げを進めていた。パネルは縦約50センチ、横約73センチ、幅45センチ。同法人では今後、新商品の開発を続けるという。同法人では今後、新商品の開発を続けるという。

来年度 収益一部事業費に 販売へ

を拡大していきたい」としている。

5者が同町で展開する照葉樹林の保護・復元事業「綾の照葉樹林プロジェクト」(綾フロ)にて事務局・てるとはの森の会を運営。パネルなどの販売収入の一部は、綾フロの事業費に充てられ、森しるしに役立てる。2005年から始まった綾フロでは、照葉樹林を復元するため、スギなどの人工林の試作品



宮崎文化本舗が間伐材を使って商品化を目指すパネルスタンドの試作品

2011.02.20 約73センチ。価格は今後決めるが、森林資源を有効活用している点などをアピールし、環境問題に取り組むNPO法人や官公庁、イベント会社などに売り込んでいく計画だ。

綾町の照葉樹林を保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」(綾フロ)の事務局を運営する宮崎市のNPO法人・宮崎文化本舗が、照葉樹林復元のため間伐したスギなどを生かした木工製品の開発に取り組んでいる。間伐材とはいえ貴重な森林資源。これをうまく活用できれば綾フロの評判も高まるだろう。また、

鬼の洗濯岩

環境教育にも役立つのではないかと。例えば、子どもたちに間伐作業を体験してもらい、間伐材でできた製茶器でもらう。そうすれば「森の大切さ」と「資源の有効活用」の二つを一度に学べる。綾フロの活動をうまく取り込み、どのような販売や活用の戦略を練り上げるか。関係者のアイデアに注目している。(港)

宮日新聞 2011/4

間伐材パネル商品化
宮日新聞 2011年2月20日 他



発行：平成 23 年 7 月

発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 連携会議

編集：てるはの森の会

お問い合わせ先：

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島 2 丁目 9-6 みやざき NPO ハウス 403 号室

TEL:0985-35-7288 FAX:0985-35-7289 電子メール:teruha@miyazaki-catv.ne.jp

ホームページ: <http://teruhanomori.com>